

佐賀県文化財調査報告書第131集

# 大久保遺跡Ⅰ

平原遺跡Ⅲ  
前田遺跡Ⅰ

—本川河川局局部改良工事関係文化財調査報告書1—

1997年3月

佐賀県教育委員会

## 序

本書は、佐賀県土木部による本川河川局部改良工事に伴い、佐賀県教育委員会・鳥栖市教育委員会・基山町教育委員会が協力して平成5年度から平成7年度にかけて実施した、大久保遺跡・平原遺跡・前田遺跡の発掘調査報告書です。

今回報告する調査地区からは、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡や墓地群が検出されるとともに、多くの遺物が出土しました。調査地区の周辺には、銅鐸の鋳型が出土した安永田遺跡や、赤漆玉鈿装鞘銅剣をはじめとする多数の青銅器が出土した柚比本村遺跡など弥生時代の重要遺跡が所在しており、今回の調査成果を合わせ検討することにより、わが国の古代史を解明する一助となることが期待されます。

これらの埋蔵文化財は、地域の歴史を知るうえで欠くことのできない文化遺産です。本書に収録された資料が永く保存され、文化財に対する認識と理解のために、また、教育および学術研究の分野において役立つことを願うものであります。

本書を刊行するにあたり、酷暑や厳寒の時節を通じ調査作業に従事していただいた地元の皆様をはじめ、関係各位から賜った深いご理解とご協力に対し、厚くお礼申し上げます。

平成9年3月

佐賀県教育委員会  
教育長 川久保善明

## 例 言

1. 本書は本川河川局河川局改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査のうち、平成5年度から平成7年度にかけて行った鳥栖市柚比町所在の大久保遺跡4区、平原遺跡4区・6区の調査報告および前田遺跡の調査概要報告書である。
2. 発掘調査は佐賀県土木部の依頼を受けて、佐賀県教育委員会が主体となり鳥栖市教育委員会・基山町教育委員会と合同で実施した。
3. 発掘調査にあたっては、地域振興整備公団鳥栖都市開発事務所、佐賀県土木部都市計画課、佐賀県土木部河川砂防課、鳥栖土木事務所、鳥栖市建設部北部丘陵対策課、基山町企画課ならびに地元各位の協力を得た。
4. 本書の執筆・編集は白木原宜が担当した。
5. 図面・写真等の記録類および出土遺物の整理作業の分担は、以下のとおりである。  
遺物復元……井上トヨ子 佐田谷昌子 佐藤ヨシエ 渋谷信子 高嶋カホル  
遺物実測……天本和子 石橋和子 緒方恭子 緒方孝子 永瀧笑美子 松野富子 横枕栄子  
遺物整理……高田加代子  
製 図……緒方恭子 緒方孝子  
遺物写真撮影……白木原宜  
写真現像焼付……天本千津代 天本美穂子
6. 本書で扱った遺構・遺物図面および写真等の調査記録類および出土した遺物は、佐賀県教育委員会が保管する。

## 凡 例

1. 各遺跡の略号および遺跡登録番号は以下のとおりである。

平 原 遺 跡 H R B (1026、2007、3005)

大久保遺跡 Y O K (2077)

前 田 遺 跡 Y M E (2009、3108、4040、5056)

2. 遺構の分類記号は以下のとおりとする。

S H：竪穴住居跡 S K：土塙 S D：溝跡 S J：甕棺墓

3. 遺構図にもちいた方位はすべて真北（座標北）である。

4. 報告書に掲載した遺物実測図は、原図および資料との照合を可能にするため、個々に8桁数字の遺物実測番号（佐賀県教育委員会登録）を遺物観察表に付記した。

5. 遺物実測図の番号は、各遺跡を通して土器や石器の種別に関係なく一連番号とし、また図版写真の番号と共通させる。

6. 遺構一覧表の中で（ ）で表した数値は推定値である。

7. 本文中および遺構一覧表の中の主軸方位は、各遺構の方位内における“ふれ”を示したもので、必ずしも遺構の長軸方向を示すものではない。

8. 遺物観察表の中で（ ）で表した数値は復元値、[ ]で表した数値は残存値である。

# 目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の経過	1
2. 調査組織	3
第2章 地理的・歴史的環境	9
1. 地理的環境	9
2. 歴史的環境	10
第3章 調査の内容	15
1. 平原遺跡4区	15
2. 平原遺跡6区	27
3. 大久保遺跡4区	33
4. 前田遺跡の概要	53
第4章 総括	55

## 挿 図 目 次

図 1	河川改良工事区・新都市開発事業区域と関連遺跡の位置(1/10,000).....	6~7
図 2	各調査区の位置(1/5,000).....	8
図 3	周辺の段丘区分(1/50,000).....	9
図 4	周辺の遺跡分布(1/50,000).....	12
図 5	平原遺跡 4 区の遺構配置(1/400).....	15
図 6	縄文時代の土壌(1/20).....	16
図 7	S H02 竪穴住居跡(1/60).....	17
図 8	S H05 竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4).....	18
図 9	S H05 竪穴住居跡出土遺物(1/4).....	19
図 10	S H13 竪穴住居跡(1/60)・S H14 竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/2)(1/4).....	21
図 11	S H15 竪穴住居跡(1/60)・S H16 竪穴住居跡(1/60).....	22
図 12	S D18 溝跡(1/50).....	23
図 13	S H01・03・04 竪穴住居跡(1/60).....	24
図 14	S H024 竪穴住居跡(1/60).....	27
図 15	平原遺跡 6 区の遺構配置(1/400).....	28
図 16	S K025・026 土壌(1/40).....	29
図 17	S K005 土壌(1/20)と出土遺物(1/2)(1/4)・S K006 土壌(1/20)と出土遺物(1/4).....	30
図 18	S H018 竪穴住居跡(1/60).....	32
図 19	大久保遺跡 4 区の遺構配置(1/400).....	34
図 20	S H4101 竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4)・S H4102 竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4).....	37
図 21	S H4103 竪穴住居跡(1/60)・S H4104 竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4).....	38
図 22	SH4105 竪穴住居跡(1/60)・SH4106 竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4)・SH4107 竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4).....	39
図 23	S H4108 竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4)・S H4109 竪穴住居跡(1/60).....	40
図 24	S H4110 竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4).....	41
図 25	S H4111 竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4)・S H4116 竪穴住居跡(1/60).....	42
図 26	S H4112 竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4)・S H4113 竪穴住居跡(1/60).....	43
図 27	S H4115 竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4).....	44
図 28	S K4201 土壌(1/30)と出土遺物(1/4).....	46
図 29	S K4203 土壌(1/30)と出土遺物(1/4).....	46
図 30	S J4401 甕棺墓(1/20)と土器(1/4).....	47
図 31	S H4114 竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4).....	52

## 表 目 次

表 1	平原遺跡 4 区 縄文時代 土壌一覽表	17
表 2	平原遺跡 4 区 弥生時代 竪穴住居跡一覽表	20
表 3	平原遺跡 4 区 弥生時代 遺物觀察表	25
表 4	平原遺跡 6 区 弥生時代 遺物觀察表	31
表 5	大久保遺跡 4 区 弥生時代 竪穴住居跡一覽表	45
表 6	大久保遺跡 4 区 弥生時代 遺物觀察表	48

## 写真図版目次

写真図版 1	平原遺跡 4 区全景（北東から）・調査前の平原古墳（北東から）
写真図版 2	平原遺跡 4 区全景（東から）・平原遺跡 4 区全景（西から）
写真図版 3	S K07.08.09.17 土壌・S H02.13 竪穴住居跡
写真図版 4	S H01.05.14.15.16 竪穴住居跡・S D18 溝跡
写真図版 5	平原遺跡 6 区全景（南から）・平原遺跡 6 区全景（東から）
写真図版 6	S H018.024 竪穴住居跡・S K005.006.025.026 土壌
写真図版 7	大久保遺跡 4 区全景（南西から）・大久保遺跡 4 区調査区西端付近
写真図版 8	大久保遺跡 4 区調査区中央付近・S H4114.4115 竪穴住居跡（西から）
写真図版 9	S H4101.4102.4103.4104.4105.4106.4107.4108.4109.4110 竪穴住居跡
写真図版 10	S H4111.4112.4113.4114.4116 竪穴住居跡・S K4201.4203 土壌・S J 4401 甕棺墓
写真図版 11	前田遺跡全景（南東から）
写真図版 12	前田遺跡全景（南から）・前田遺跡全景（北斜面）
写真図版 13	平原遺跡 4 区 S H05 竪穴住居跡出土土器
写真図版 14	平原遺跡 4 区 S H05.14・大久保遺跡 4 区 S H4101.4104・S H4111 出土土器
写真図版 15	大久保遺跡 4 区 S K4201.4203・S J 4401 出土土器

# 報告書抄録

ふりがな	おおくほいせき
書名	大久保遺跡 I
副書名	本川川河川局改良工事関係文化調査報告書
巻次	1
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書
シリーズ番号	第131集
編著者名	白木原宜
編集機関	佐賀県教育委員会
所在地	〒840 佐賀県佐賀市城内1丁目1番59号 ☎0952-25-7232
発行年月日	西暦 1997年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひらばる 平原遺跡4区 〃 6区	さがけんとすしゆびまちあざひらばる 佐賀県鳥栖市柚比町字平原	412031		33度 23分 53秒	130度 31分 27秒	19940121 \n19950330	4,000	河川（本川川河川局改良工事に伴う事前調査）
おおくほ 大久保遺跡4区	さがけんとすしゆびまちあざおおくほ 佐賀県鳥栖市柚比町字大久保			33度 23分 50秒	130度 31分 13秒	19940302 \n19940330	2,500	
まえた 前田遺跡	さがけんとすしゆびまちあざまえた 佐賀県鳥栖市柚比町字前田			33度 23分 56秒	130度 30分 58秒	19930401 \n19960208	3,800	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平原遺跡4区	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代	竪穴住居跡 土 壇 溝 跡	弥生土器 須恵器・土師器 石器	
平原遺跡6区		弥生時代 古墳時代	竪穴住居跡 土 壇	弥生土器 土師器・須恵器 石器	
大久保遺跡4区		弥生時代 古墳時代	竪穴住居跡 土 壇	弥生土器 土師器・須恵器 石器	
前田遺跡		弥生時代 古墳時代 中 世	竪穴住居跡 土 壇 溝	弥生土器 土師器・須恵器 石器	

## 第1章 調査の概要

### 1. 調査の経過

本川河川局局部改良工事（以下、河川改良工事と呼ぶ）は、鳥栖北部丘陵新都市開発整備事業（以下、新都市開発事業と呼ぶ）に関連し、事業地区内を流れる本川の改修および防災を目的として佐賀県土木部の所管により計画された。工事計画は、平原遺跡・大久保遺跡・前田遺跡の3遺跡にまたがっており、調査面積はそれぞれ平原遺跡=5,200 m<sup>2</sup>、大久保遺跡=5,800 m<sup>2</sup>、前田遺跡=3,800 m<sup>2</sup>となった。調査にあたって、本書で報告する平原遺跡4区・6区、大久保遺跡4区を除いた他の調査に関しては、新都市開発事業に関する調査と一体的に実施した。これは、調査区（工事計画線）が新都市開発事業関連の調査区の中を通過することから、ひとつの遺跡を細分化し調査することにより予想される弊害（調査工程が煩雑になり管理が難しくなる・二度手間になる作業が多くなり調査費や調査期間に無駄が生じる・遺跡を総合的に理解する妨げになる）を考慮したものである。

確認調査は新都市開発事業に関係する遺跡とともに、昭和52年度に大久保遺跡(1)、昭和53年度および平成2年度に平原遺跡(2)、昭和55年度に前田遺跡(3)について実施され、その結果、工事計画線内には、弥生時代～古墳時代の集落跡（平原遺跡、大久保遺跡、前田遺跡）、弥生時代の甕棺墓地（大久保遺跡南西部）が存在することが確認された。

本調査は平成5年度から平成7年度にかけて実施された。各遺跡の調査期間・調査面積および報告の方法は以下のとおりである。

#### 平原遺跡

##### 4区

調査期間：平成6年1月～平成6年3月

調査面積：1,200 m<sup>2</sup>

備考：本報告書に掲載

##### 6区

調査期間：平成7年1月～平成7年3月

調査面積：2,800 m<sup>2</sup>

備考：本報告書に掲載

#### その他

平原遺跡7区（新都市開発事業関連）内を工事計画線が通過しており、平原遺跡7区と一体のものとして平成7年4月～8月に1,200 m<sup>2</sup>が調査された。大久保遺跡6区とともに次回報告書に概要を記す。

## 第1章 調査の概要

### 大久保遺跡

#### 4区

調査期間：平成6年3月

調査面積：2,500 m<sup>2</sup>

備考：本報告書に掲載。なお、調査地区の西半部約400 m<sup>2</sup>については遺構が検出されなかったため、報告から除外した。

### その他

工事計画線が大久保遺跡6区（新都市開発事業地区）内を通過しており、発掘調査は大久保遺跡6区と一体的に平成7年4月～11月に3,300 m<sup>2</sup>が調査された。平原遺跡7区とともに次回報告書に概要を記す。

### 前田遺跡

工事計画線が前田遺跡1区・2区・4区（新都市開発事業地区）の北端近くを通過しており、発掘調査はこれらと一体的に平成7年4月～平成8年2月に実施された。本書では前田遺跡の概要を述べ、各遺構の内容や遺跡全体を通じた分析は後日行う。なお、前田遺跡の中の北西端の470 m<sup>2</sup>が平成5年度に調査されたが、遺構・遺物とも確認されなかったため報告から除外する。河川改良工事に関連する前田遺跡の調査面積の合計は、3,800 m<sup>2</sup>である。

なお、同じく新都市開発事業に関連する本川川防災調整池新設工事に係る埋蔵文化財発掘調査は、平成3年度から平成4年度にかけて平原遺跡1区・2区として実施され、報告書が刊行済みである。

### 註

1. 鳥栖市教育委員会【大久保遺跡】—柚比遺跡群範囲確認調査第1年次概要報告書—鳥栖市文化財調査報告書第6集 1980
2. 鳥栖市教育委員会【柚比遺跡群範囲確認調査第2年次概要報告書】—梅坂炭化米遺跡・平原古墳・平原遺跡の調査—鳥栖市文化財調査報告書第4集 1979
3. 水田部について、佐賀県教育委員会が鳥栖市教育委員会の協力を得て実施
4. 鳥栖市教育委員会【前田遺跡】—柚比遺跡群範囲確認調査第4年次概要報告書—鳥栖市文化財調査報告書第23集 1984

## 第1章 調査の概要

### 2. 調査組織

調査主体 佐賀県教育委員会

調査協力 鳥栖市教育委員会 基山町教育委員会

#### 平成5年度

総括	佐賀県教育長	堤 清行	発掘調査	佐賀教育委員会文化財課
	教育次長	土居 正		調査係長 高瀬 哲郎
	文化財課長	高島 忠平		主 査 立石 泰久
	課長補佐	中牟田賢治		文化財保護主事 樋口 秀信
	〃	瀬戸 明廣		〃 家田 淳一
庶務	佐賀県教育委員会文化課			〃 渋谷 格
	庶務企画係長	永松 和久		鳥栖市教育委員会社会教育課
	主 査	濱野 清子		事務吏員 鹿田 昌宏
	〃	鷺崎 義彦		〃 湯浅 満暢
	主 事	池田 学		〃 久山 高史
	嘱 託	瀬戸喜久子		基山町教育委員会社会教育課
				文化財保護主事 田中 正弘

#### 平成6年度

総括	佐賀県教育長	林田 重人	発掘調査	佐賀県教育委員会文化財課
	教育次長	土居 正		調査係長 天本 洋一
	文化財課長	高島 忠平		主 査 立石 泰久
	参 事	木下 巧		文化財保護主事 家田 淳一
	課長補佐	田平 徳栄		〃 白木原 宜
	〃	瀬戸 明廣		〃 武谷 和彦
庶務	佐賀県教育委員会文化課			鳥栖市教育委員会社会教育課
	庶務企画係長	岩瀬 茂生		事務吏員 鹿田 昌宏
	主 査	古屋きよみ		〃 湯浅 満暢
	〃	鷺崎 義彦		〃 内野 武史
	主 事	池田 学		基山町教育委員会社会教育課
	嘱 託	谷本 祐子		文化財保護主事 田中 正弘

## 第1章 調査の概要

平成7年度

総括	佐賀県教育長	林田 重人	発掘調査	佐賀県教育委員会文化財課
	教育次長	月岡 英人		調査班
	文化財課長	高島 忠平	企画調整主査	東中川忠美
	参事	木下 巧	主査	家田 淳一
	課長補佐	田平 徳栄	指導主事	小松 譲
	◇	深町 昌司	文化財保護主事	白木原 宜
庶務	佐賀県教育委員会文化課		◇	川副麻理子
	庶務企画係長	岩瀬 茂生	嘱託	西村 秀昭
	主査	久保 信行	◇	下村佐和子
	◇	鷺崎 義彦	鳥栖市教育委員会社会教育課	
	主事	富窪 道代	事務吏員	湯浅 満暢
			◇	内野 武史
			◇	石田 玲子
			基山町教育委員会社会教育課	
			文化財保護主事	飛松 広美

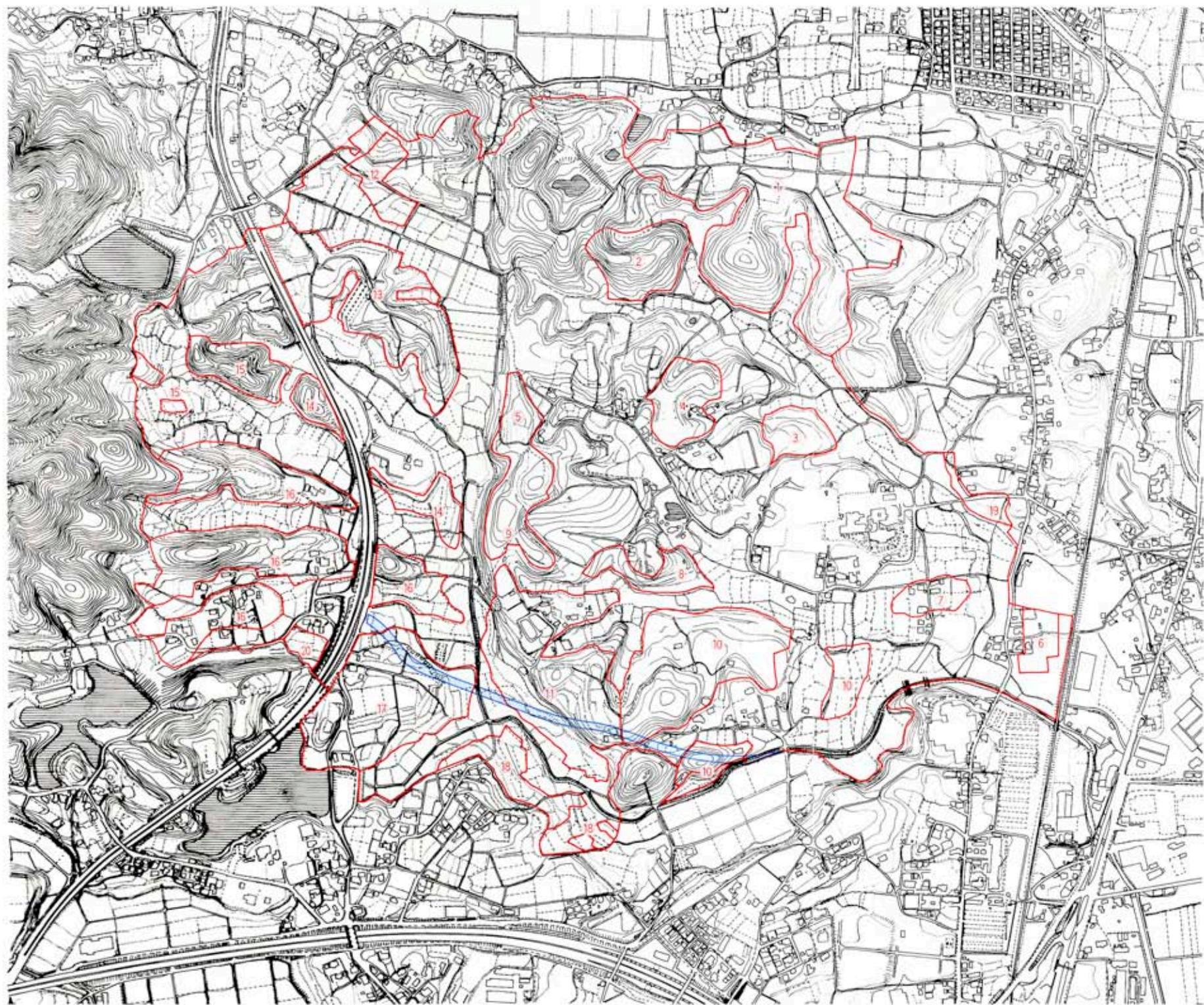
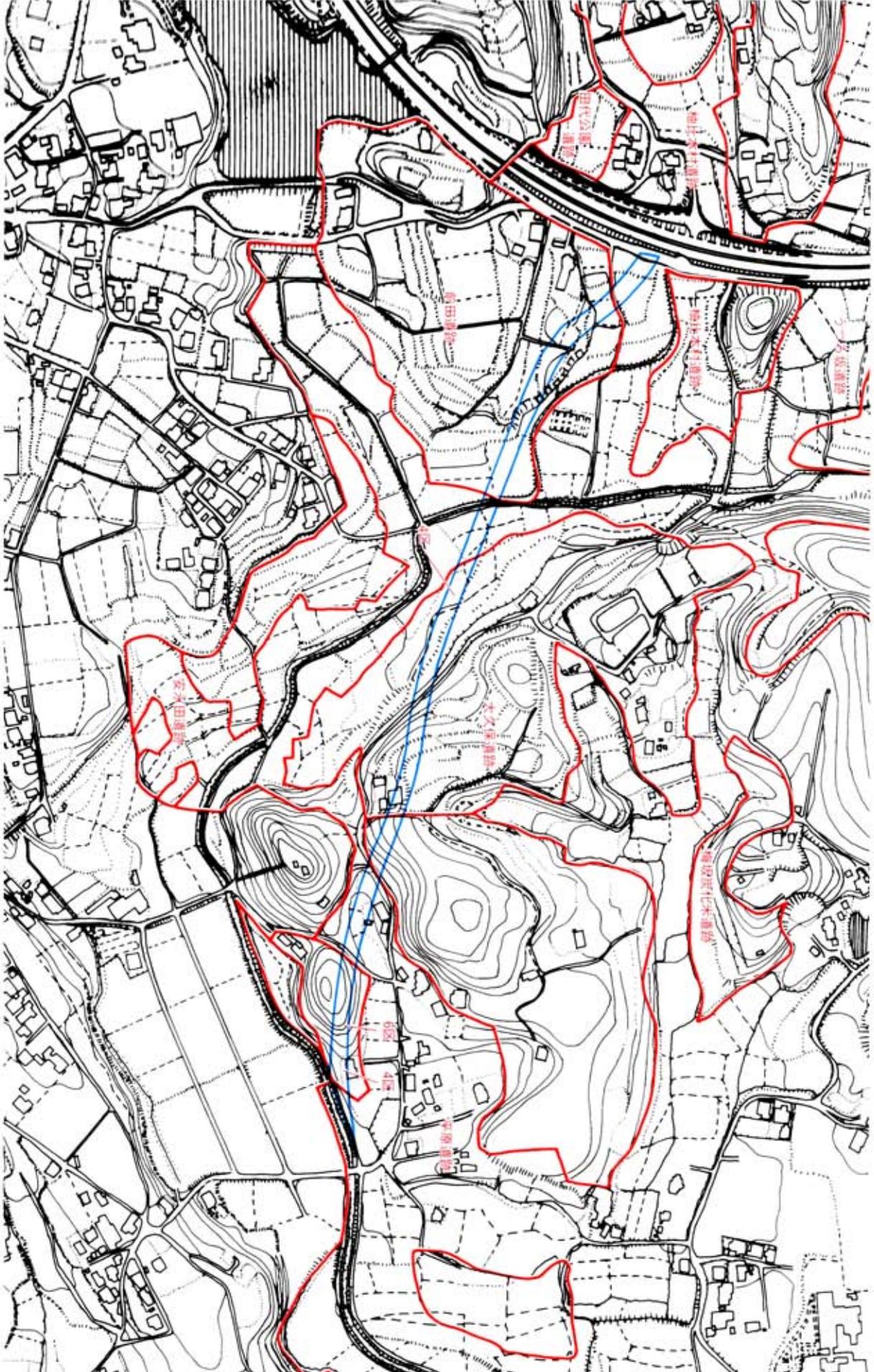


図1 河川改良工事位置、新都市開発事業区域と関連遺跡 (1/10,000)

- |           |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ① 八ツ並金丸遺跡 | ⑥ 長ノ原遺跡   | ⑪ 大久保遺跡   | ⑮ 柚比本村遺跡  |
| ② 今町共同山遺跡 | ⑦ 岸田南遺跡   | ⑫ 三ヶ敷梅坂遺跡 | ⑯ 前田遺跡    |
| ③ 今町岸田遺跡  | ⑧ 梅坂炭化米遺跡 | ⑬ 柚比梅坂遺跡  | ⑰ 安永田遺跡   |
| ④ 今町梅坂遺跡  | ⑨ 大久保北遺跡  | ⑭ うつろ坂遺跡  | ⑱ 今町大地添遺跡 |
| ⑤ 今町梅坂西遺跡 | ⑩ 平原遺跡    | ⑰ 永田古墳群   | ⑳ 田代公園遺跡  |

図2 調査区の位置



## 第2章 地理的・歴史的環境

## 1. 地理的環境

遺跡の所在する鳥栖市は、佐賀県の東端近くに位置しており、筑後川流域に展開する広義の筑紫平野の一角、狭義の筑後平野の北西部を占める。北側は脊振山地を境とし福岡県那珂川町と、南側は筑後川を境として福岡県久留米市と接する。東側は平野伝いに福岡県小郡市と、西側は脊振山地から派生する丘陵群を介して佐賀県中原町・北茂安町と接する。また、北東側は佐賀県基山町から福岡県筑紫野市方面に連なる地峡を経て、福岡平野に至る。

市域内の地形を概観すると、脊振山塊のひとつである九千部山を中心とする山麓部、山麓部から続く洪積段丘群および扇状地、扇状地の下に広がる沖積平野の三つに大別される。九千部山を主峰とする支嶺は大きく二方向にのびており、一方は権現山から南東に下り、杓子ヶ峰を経て遺跡の所在する柚比町や今町の段丘に達している。もう一方は九千部山の南西から南に下り、石谷山、笛吹山を経て北茂安町千栗を末端とする段丘に達している。主要な河川はいずれも筑後川水系で、秋光川、山下川、大木川、安良川、沼川などがある。いずれも、各支嶺を源としおおむね南流している。

本書に掲載する遺跡の所在する場所は、上記のうち杓子ヶ峰山麓からのびる洪積段丘群および扇状地で、段丘と段丘の間を狭い谷が蛇行しながら奥深く入り込む複雑な地形になっている。それぞれの谷の谷頭には湧水源があり、調査着手直前まで谷に沿って水利を利用した水田が営まれていた。各湧水源から流れ出る小溪流は集まって本川川となる。この一帯は「柚比遺跡群」と総称される遺跡の集中地帯であるが、遺跡の成立に当たって、この水利の存在が大きかったことが推定される。

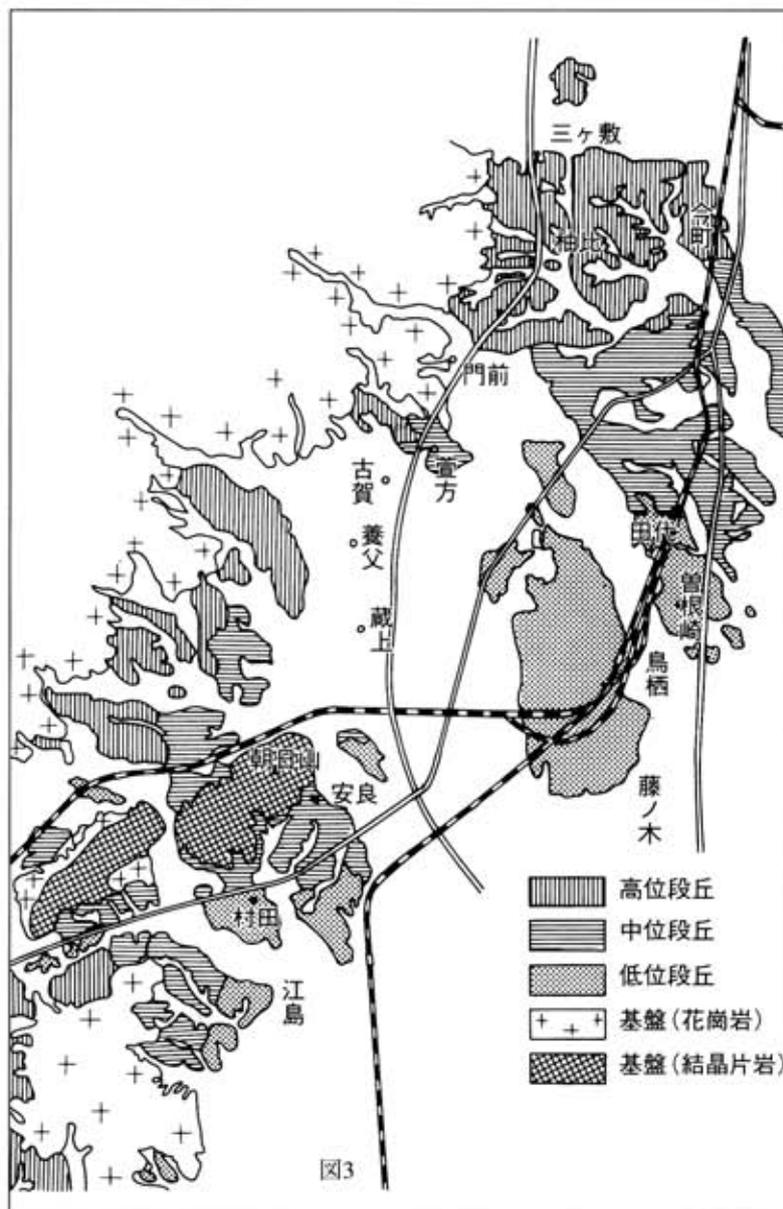


図3 鳥栖市の段丘区分図 (1/50,000)

## 2. 歴史的環境

鳥栖地域の旧石器時代については、十分に実態が把握できていない。本川原遺跡(1)・長ノ原遺跡(2)などでナイフ形石器や細石器類などが出土しているが、いずれも明確な遺構や遺物包含層からの出土ではない。

縄文時代では、少ないながらも早期から晩期までの資料が見いだせる。西田遺跡(3)は早期の明確な遺構が検出された唯一の遺跡で、押型文土器に伴う種々のタイプの集石遺構や帯状配石遺構が検出されている。この他、安永田遺跡(4)・柚比梅坂遺跡(5)・山浦西北方遺跡(1)などから押型文土器の出土が報じられている。前期の資料は柚比梅坂遺跡・山浦西北方遺跡などで曾畑式土器の出土が知られるのみである。中期では、平原遺跡2区(6)で多数の集石遺構が検出され、並木式土器が出土している。この他、西田遺跡からは船元式土器が出土している。また、笛吹山遺跡(7)からは阿高式系土器が出土したとの報告がある。後期には、山田遺跡(8)で阿高式系の凹点紋土器が、桑ノ木添遺跡(9)で鐘崎式系土器と北久根山式土器が出土したとされる。晩期の遺跡は調査例が増える。本川原遺跡では黒川式土器に伴う袋状土壌や小穴が検出されている。また、平原遺跡2区の上層からは黒川式並行期の遺物包含層が確認されている。縄文時代晩期から弥生時代に移り変わる時期のものとして、村田三本松遺跡(10)で土器棺墓群が、永吉遺跡(11)で土墳墓の副葬品の可能性をもつ夜臼式の小壺と有柄石剣が出土している。

弥生時代になると前期後半以降、遺跡の数は飛躍的に増加する。遺跡の分布は大きく二つのグループに分かれる。一方は本書に掲載する遺跡を包含する「柚比遺跡群」＝北東部の柚比町・今町周辺の丘陵群、もう一方は南西部の朝日山南麓から北茂安町千栗に至る丘陵群である。両者とも丘陵に狭い谷が深く入り組んだ複雑な地形が特徴的である。

柚比遺跡群では、八ツ並金丸遺跡(12)・今町岸田遺跡(13)・長ノ原遺跡が集落として早く成立する。このうち八ツ並金丸遺跡では前期前半、長ノ原遺跡では中期初頭の環濠の一部が確認されている。なお、今町岸田遺跡については、前期末～中期初頭のものと考えられる住居跡や貯蔵穴群が検出されている(14)。中期初頭には平原遺跡(15)・安永田遺跡(16)、中期中頃には大久保遺跡(17)・前田遺跡(18)などの集落が形成される。このうち、平原遺跡では中期末に丘陵の頂部を囲んだ環濠集落が形成され、安永田遺跡では同じく中期末に銅鐸や銅矛の生産が行われている。墓地は集中個所が限られており、中期前半から中期後半にかけての甕棺墓が、大久保遺跡で約330基、柚比梅坂遺跡で約400基(19)、安永田遺跡で約170基(20)出土している。また、フケ遺跡(21)においても同時期の甕棺墓地が確認されている。柚比本村遺跡(22)はこれらの墓地群と性格を異にし、中期初頭の木棺墓の造営を始めとして、後期前半までの甕棺墓が45基出土している(中期後半に一時、造墓が中断する)。墓地群からは細形銅剣3(赤漆玉錒装鞘銅剣を含む)・中細形銅剣4・青銅製把頭飾2・石製把頭飾1などが出土した。また、中期中頃～後半の大型の掘立柱建物が5棟確認されている。

一方、南西部の朝日山南麓から北茂安町千栗に至る丘陵群については内容が不明な部分が多いが、柚比遺跡群に匹敵する遺跡が集中するものと考えられる。村田三本松遺跡では前期末～中期後半の甕棺墓群が祭祀土壌を伴って検出されている。本行遺跡(23)は中期から営まれる遺跡で、銅鐸・銅剣・銅矛などの鋳型片が出土している。本行遺跡を中心とする一帯をみると、中広形銅矛が12本埋納されていた北茂安町検見谷遺跡(24)や周辺から出土したものと推測される江島町の広形銅戈の鋳型(25)の存在などから、中期から後期に至るまで青銅器生産が継続した地域であることが推測される。

弥生時代後期になると、この二つのグループにみられるような中～高位段丘上で営まれてきた遺跡が減少する傾向にある一方、本原遺跡(26)・本川原遺跡(27)・宮の前遺跡(28)などに代表されるように、低位段丘の縁辺や扇

## 第2章 地理的・歴史的環境

状地に立地する遺跡が目立ち始める。この遺跡の低地への進出は、藤木遺跡(29)・小原遺跡(30)・内畑遺跡(31)などにみられるように古墳時代初頭にかけて継続して認められる。

古墳時代前期から中期の集落の様相は不明瞭な部分が多いが、養父遺跡(32)・桑ノ木添遺跡(33)・元古賀遺跡(34)などのように、やはり低位段丘の縁辺や扇状地に立地する傾向がうかがえる。前期の墳墓については、前方後方墳である赤坂古墳(35)・本川原遺跡の方形周溝墓群・日岸田遺跡(1)の方形周溝墓群・荻野遺跡(1)の箱式石棺墓などのように、集落と同様の立地を示している。中期になると、平原古墳(36)・山浦古墳群(37)・薄尾古墳群(38)などのように低位段丘だけでなく中位段丘の先端に立地する墳墓がみられるようになる。

古墳時代後期になると、中位段丘上に剣塚古墳(39)・岡寺古墳(40)・庚申堂塚古墳(41)・田代太田古墳(42)などの大型の前方後円墳や円墳が相次いで築造される。これら大型の墳墓は、前時期までの墳墓と比較し、規模・内容・占地の面で大きな差があり、この地域における政治的状況に大きな変化があったことがうかがえる。また、この時期には、脊振山系の山麓部を中心に、東十郎古墳群(43)・杓子ヶ峰古墳群・永田古墳群(44)・都谷古墳群(1)などに代表されるように群集墳の形成が著しい。古墳時代後期の集落については、不明な部分が多いが、平野部において散在するとともに、柚比遺跡群中の大久保遺跡・安永田遺跡・前田遺跡・梅坂炭化米遺跡などのように丘陵部に展開する集落も存在する。古墳(群)と集落の相関関係の解明が今後の課題となろう。

古代律令国家体制下において鳥栖地域は肥前国に属し、概ね大木川を境界として北東部は基肄郡、南東部は養父郡に分けられる。基肄郡は『肥前國風土記』に「郷陸所 里一十七、驛壺所 小路、城壺所」とあり、『和名類聚抄』には姫社・山田・基肄・川上・長谷の5郷が挙げられている。また、養父郡は『肥前國風土記』に「郷肆所 里一十二、烽壺所」とあり、鳥榑・日理・狭山の3郷がみえ、『和名類聚抄』には狭山・屋田・養父・鳥栖の4郷が挙げられている。郡衙は両郡に設置されていたと推定され、基肄郡衙の位置は現在のところ不明、養父郡衙は現在の蔵上町に所在したと考えられている。当時期の集落遺跡は、荻野遺跡・本川原遺跡・日岸田遺跡などのように平野部にみられるが、柚比梅坂遺跡・うつろ坂遺跡(45)などのように丘陵部にも形跡をうかがうことができる。これらの集落跡については分布や性格を含め、今後の検討課題となろう。なお、養父郡の「烽壺所」は、現在の朝日山に置かれていたと推定されている。

平安時代後期以降、律令体制の衰退に伴い鳥栖地域にも荘園が形成され、国衙領を圧迫するようになる。鎌倉時代後期の正応5(1292)年の記録(46)によれば、荘園は基肄・養父両郡のうちほぼ半数の耕地を占めるに至っており、これらの大部分は太宰府天満宮安楽寺領、残りは宇佐八幡宮弥勒寺領となっている。また、史料には在地領主として、曾禰崎氏・土々呂木氏・藤木氏・山浦氏・神辺氏などが記されている。調査例としては、一の坪遺跡(47)で村落の一部が、今和泉遺跡(48)では在地領主の館跡とも考えられる遺構が検出されている。

南北朝時代から戦国時代にかけて、この地域は少弐氏・一色氏・今川氏・渋川氏・菊池氏などの支配者が頻りに交替したが、明応6(1497)年に筑紫氏が鳥栖地域を押さえて以降は、天正14(1586)年に島津氏に攻略されるまでの約90年間、勝尾城を本城に周辺を押さえ鷹取城・葛籠城をはじめとする支城群が構成され、城下町も形成されていった。

天正15(1587)年の豊臣政権による九州平定後は、基肄郡と養父郡の東半分は対馬藩領、養父郡西半分は佐賀鍋島藩領となる。長崎街道が整備されるとともに、両藩の領内にはそれぞれ田代宿、轟木宿が設けられた。



- |            |            |             |           |             |
|------------|------------|-------------|-----------|-------------|
| 1. 平原遺跡    | 9. 安永田遺跡   | 17. 田代太田古墳  | 25. 検見谷遺跡 | 33. 西田遺跡    |
| 2. 大久保遺跡   | 10. フケ遺跡   | 18. 岡寺古墳    | 26. 本原遺跡  | 34. 山浦西北方遺跡 |
| 3. 八ツ並金丸遺跡 | 11. 本川原遺跡  | 19. 永田古墳群   | 27. 宮の前遺跡 | 35. 山田遺跡    |
| 4. 今町岸田遺跡  | 12. 荻野遺跡   | 20. 杓子ヶ峰古墳群 | 28. 藤木遺跡  | 36. 村田三本松遺跡 |
| 5. 柚比梅坂遺跡  | 13. 日岸田遺跡  | 21. 東十郎古墳群  | 29. 小原遺跡  | 37. 笛吹山遺跡   |
| 6. 長ノ原遺跡   | 14. 赤坂古墳   | 22. 都谷古墳群   | 30. 内畑遺跡  | 38. 桑ノ木添遺跡  |
| 7. 柚比本村遺跡  | 15. 剣塚古墳   | 23. 宮西古墳群   | 31. 養父遺跡  | 39. 山浦古墳群   |
| 8. 前田遺跡    | 16. 庚申堂塚古墳 | 24. 本行遺跡    | 32. 元古賀遺跡 | 40. 薄尾古墳群   |

図4 周辺の主要遺跡 (1/50,000)

## 第2章 地理的・歴史的環境

### 註

1. 佐賀県教育委員会 1991 『都谷遺跡』佐賀県文化財調査報告書第104集
2. 鳥栖市教育委員会 1979 『長ノ原遺跡調査概報』鳥栖市文化財調査報告書第5集
3. 佐賀県教育委員会 1992 『西田遺跡』『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書10』
4. 鳥栖市教育委員会 1986 『安永田遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第16集
5. 鳥栖市教育委員会 1984 『柚比遺跡群範囲確認調査第6年次概要報告書－柚比梅坂遺跡の調査－』鳥栖市文化財調査報告書第18集
6. 佐賀県教育委員会 1993『平原遺跡Ⅱ－本山川防災調節池事業関係文化財調査報告書2－』佐賀県文化財調査報告書第120集
7. 松尾禎作 1957 『佐賀県考古大観（先史・原史時代編）』祐徳博物館
8. 1990～91年に鳥栖市教育委員会が調査
9. 1982～83年に鳥栖市教育委員会が調査
10. 鳥栖市教育委員会 1983 『村田・三本松遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第17集
11. 小田富士雄 1959 『佐賀県田代発見の石剣と土器』『九州考古学』第7・8号 九州考古学会
12. 鳥栖市教育委員会 1986 『八ツ並遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第28集
13. 鳥栖市教育委員会 1987 『岸田遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第34集
14. 新都市開発事業に伴い佐賀県教育委員会が調査中
15. ①鳥栖市教育委員会 1982 『平原遺跡・平原古墳』鳥栖市文化財調査報告書第11集  
②佐賀県教育委員会 1993 『平原遺跡Ⅰ』佐賀県文化財調査報告書第119集  
③新都市開発事業に伴い佐賀県教育委員会が1993～1995年に調査
16. ①鳥栖市教育委員会 1983 『安永田遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第16集  
②鳥栖市教育委員会 1985 『安永田遺跡－佐賀県鳥栖市に所在する安永田遺跡銅鐸鋳型出土地点の調査－』鳥栖市文化財調査報告書第16集  
③新都市開発事業に伴い佐賀県教育委員会が1992～1994年に調査
17. ①鳥栖市教育委員会 1980 『大久保遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第6集  
②新都市開発事業に伴い佐賀県教育委員会が1992～1995年に調査
18. ①鳥栖市教育委員会 1984 『前田遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第23集  
②新都市開発事業に伴い佐賀県教育委員会が調査中
19. 新都市開発事業に伴い佐賀県教育委員会が1995～1996年に調査
20. 新都市開発事業に伴い佐賀県教育委員会が1992～1994年に調査
21. 鳥栖市教育委員会 1984 『フケ遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第20集
22. ①新都市開発事業に伴い佐賀県教育委員会が1991～1994年に調査  
②渋谷格 1994 『鳥栖市柚比本村遺跡の調査』『九州考古学』第69号 九州考古学会
23. ①鳥栖市教育委員会が1991～1994年に調査  
②向田雅彦 1993 『鳥栖市出土の青銅器鋳型類』『考古学ジャーナル』No.359 ニュー・サイエンス社  
③向田雅彦 1996 『鳥栖市本行遺跡の矛形祭器の埋納遺構』『考古学ジャーナル』No.406 ニュー・サイエンス社

## 第2章 地理的・歴史的環境

24. 北茂安町教育委員会 1986 「検見谷遺跡」北茂安町文化財調査報告書第2集
25. 中川直之 1987 「広形銅戈の鋳型 鳥栖市で発見される」『新郷土』462号 新郷土刊行会
26. 鳥栖市教育委員会 1988 「本原遺跡」鳥栖市文化財調査報告書第36集
27. ①佐賀県教育委員会 1974 「本川原遺跡」佐賀県文化財調査報告書第26集  
②佐賀県教育委員会 1975 「本川原遺跡-第2次調査」佐賀県文化財調査報告書第32集
28. 鳥栖市教育委員会 1986 「鳥栖市南部団地建設に伴う埋蔵文化財調査報告書」鳥栖市文化財調査報告書第26集
29. ①鳥栖市教育委員会が1994年～1995年に調査  
②大庭敏男1996「39. 藤木遺跡」『佐賀県文化財年報1』佐賀県教育庁文化財課
30. 鳥栖市教育委員会 1981 「小原遺跡」鳥栖市文化財調査報告書第9集
31. 鳥栖市教育委員会が1989～1990年に調査
32. 鳥栖市教育委員会が1990～1991年に調査
33. 鳥栖市教育委員会が1982～1983年に調査
34. 鳥栖市教育委員会が1989年に調査
35. 鳥栖市教育委員会 1987 「赤坂古墳」鳥栖市文化財調査報告書第32集
36. ①鳥栖市教育委員会 1982 「平原遺跡・平原古墳」鳥栖市文化財調査報告書第11集  
②新都市開発事業に伴い佐賀県教育委員会が1995年に調査
37. 佐賀県教育委員会 1973 「鳥栖市山浦古墳群」佐賀県文化財調査報告書第21集
38. 松尾禎作 1958 「薄尾古墳群について」『鳥栖史談』2 鳥栖史談会
39. 鳥栖市教育委員会 1984 「剣塚前方後円墳」鳥栖市文化財調査報告書第22集
40. 鳥栖市教育委員会 1984 「岡寺前方後円墳」鳥栖市文化財調査報告書第21集
41. 佐賀県立博物館 1978 「庚申堂塚調査報告書」佐賀県立博物館調査研究書第4集
42. 鳥栖市教育委員会 1976 「田代太田古墳調査及び保存工事報告書」鳥栖市教育委員会
43. 佐賀県教育委員会 1966 「東十郎古墳群」
44. ①鳥栖市教育委員会 1982 「袖比遺跡群範囲確認調査第5年次概要報告書-永田古墳群の調査-」鳥栖市文化財調査報告書第14集  
②新都市開発事業に伴い佐賀県教育委員会が調査中
45. 新都市開発事業に伴い佐賀県教育委員会が1993・1996年に調査
46. 「川上神社文書」『佐賀県史料集成』第1巻 1955
47. 鳥栖市教育委員会 1985 「鳥栖市団体営園場整備事業関係埋蔵文化財調査報告書」鳥栖市文化財調査報告書第24集
48. 鳥栖市教育委員会が1985年に調査

## 第3章 調査の内容

### 1. 平原遺跡4区

#### (1) 概要

平原遺跡は、佐賀県鳥栖市袖比町字平原・大久保と今町字岸田に所在する。平原遺跡として周知化された範囲を地形的に見ると、大久保遺跡から東側に続く標高54～30mの段丘群と段丘群東側の本川川に面する標高25～20mの扇状地に大別できる。平原遺跡4区は6区と共に、本川川北岸の標高約45mの段丘の東裾部に当たる。この段丘上には、平原古墳が所在しており、新都市開発事業に伴い平成7年度に調査が実施されている。

平原遺跡4区の調査面積は1,200㎡で、西側で6区に接している。平成6年1月～3月に調査された。調査区からは縄文時代のものと考えられる落とし穴6基、弥生時代の竪穴住居跡6棟、溝跡1条、古墳時代の竪穴住居跡3棟が検出された。遺物はさほど多くないが、SH05竪穴住居跡からは弥生時代後期末の土器（惣座Ⅱ式＝蒲原1991）が多量に出土した。以下、各時代ごとに概要を述べる。

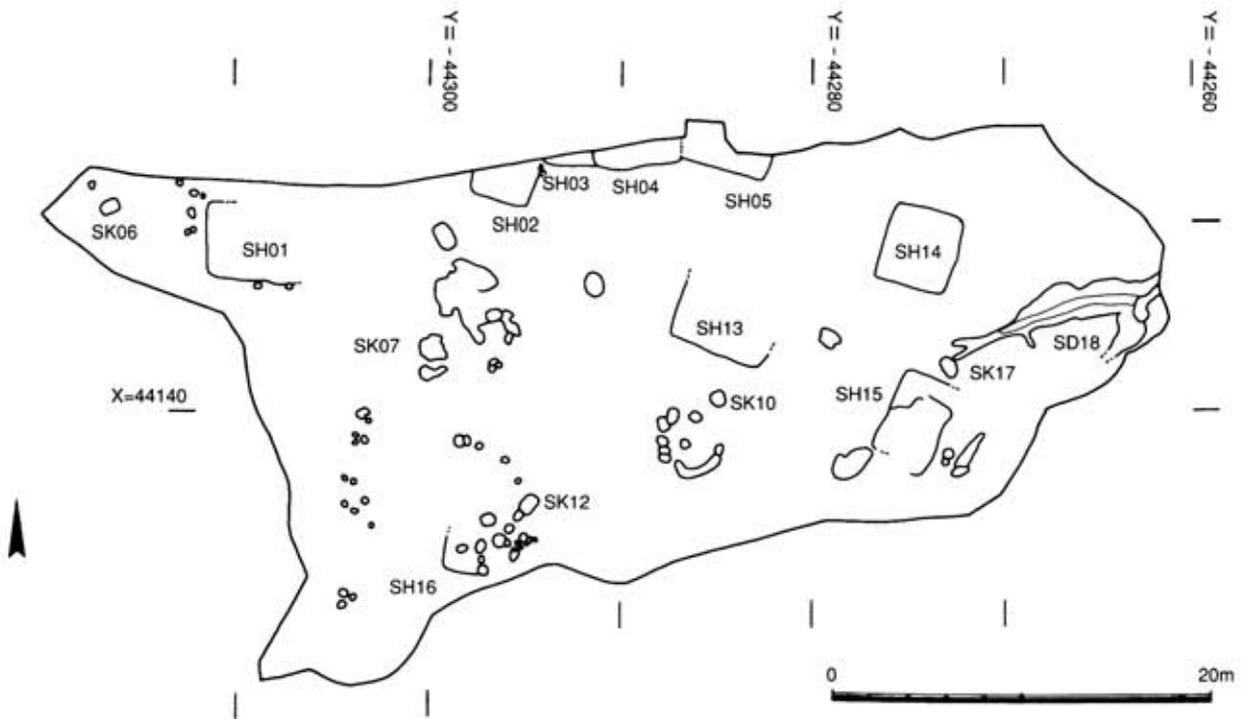


図5 平原遺跡4区の遺構配置 (1/400)

#### (2) 縄文時代の遺構 (図6・写真図版3)

6基の土壌が検出された。平面形は概ね楕円形～長方形で、底部に小穴を伴う。また、6基とも、土器や石器などの遺物は全く出土しなかった。時期や機能を限定するには材料が乏しいが、土壌の堆積土が弥生時代のものより風化が認められること、また、土壌底部の小穴は棒のようなものを立てた可能性があることなどから、縄文時代の落とし穴と推定し報告する。それぞれの規模や特徴は表1にまとめる。

第3章 調査の内容

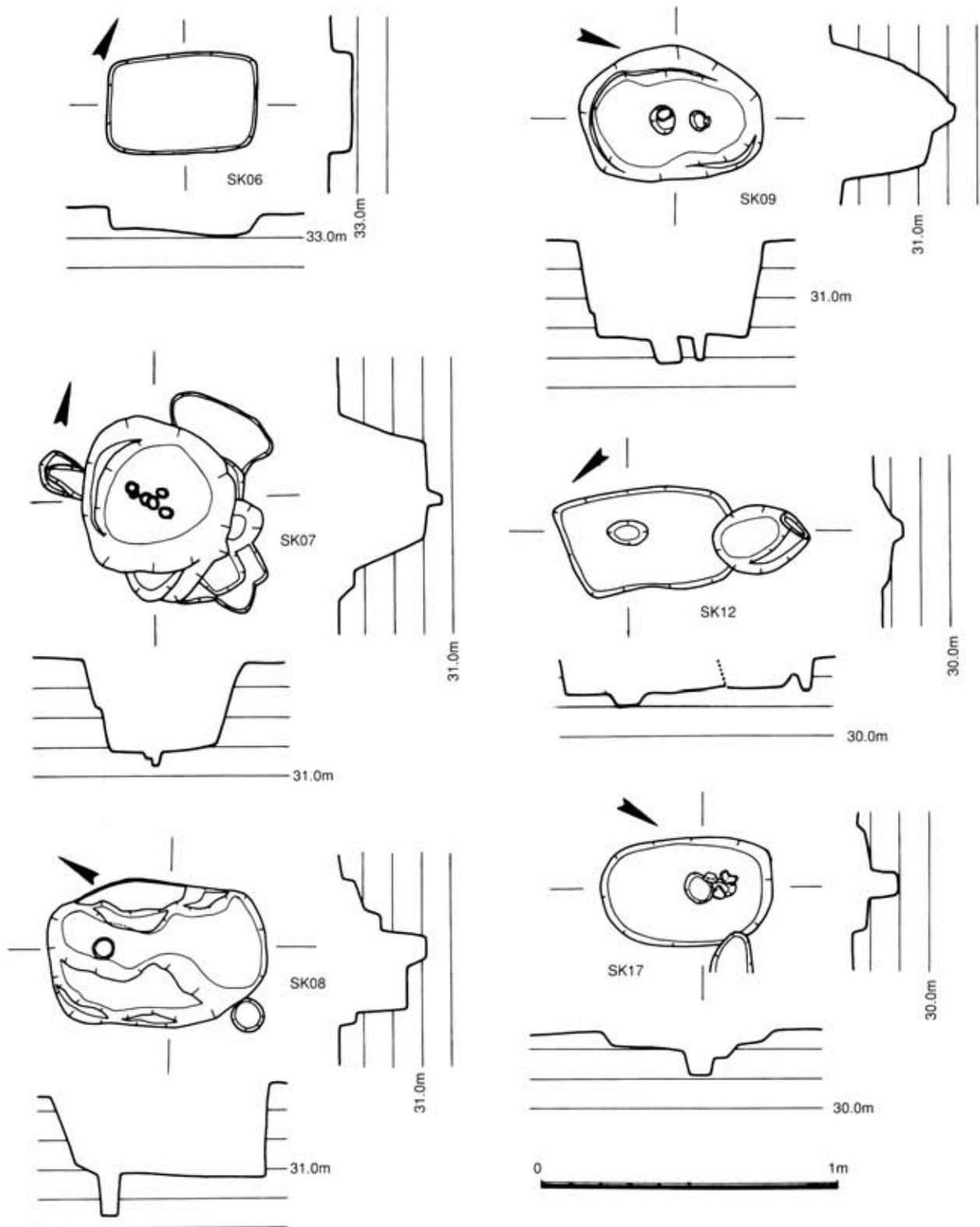


図6 縄文時代の土坑 (1/20)

### 第3章 調査の内容

表1 平原遺跡4区 縄文時代 土坑一覧表

挿図番号	遺構番号	平面形態	規模			主軸方位	備考
			長辺	短辺	深さ		
図6	SK06	長方形	0.50m	0.35m	0.10m	N-68° -E	
々	SK07	不整形	0.50m	0.50m	0.35m	N-74° -E	底部に小穴
々	SK08	楕円形	0.75m	0.50m	0.40m	N-31° -W	底部に小穴
々	SK09	楕円形	0.60m	0.45m	0.40m	N-16° -W	底部に小穴・小石
々	SK12	長方形	0.60m	0.35m	0.15m	N-43° -E	底部に小穴
々	SK17	楕円形	0.60m	0.40m	0.15m	N-27° -W	底部に小穴・小石

#### (3) 弥生時代の遺構と遺物 (図8～12・写真図版3・4・13・14)

##### ① 竪穴住居跡

竪穴住居跡が6棟検出された。以下、概略を述べ、遺構の規模、特徴等は表2 (P20)、遺物の詳細は表3 (P25) にまとめる。

##### SH02

調査区北部中央に位置する。北側が調査区の外になるため、全体像は不明。埋土中から弥生土器の細片が出土しただけで、時期は限定し難い。

##### SH05

調査区北部やや東よりに位置しており、SH02同様、全体像は不明。東部にベッド状遺構らしき段差をもつ。西側は古墳時代の竪穴住居跡 (SH04) と重複する。床面および埋土中のうち床面に近いレベルから、弥生時代後期末にあたる惣座Ⅱ式 (蒲原1991) の土器がまとまって出土した。土器の多くは長胴甕で、他に直口壺、広口壺、高杯、器台などが出土した。

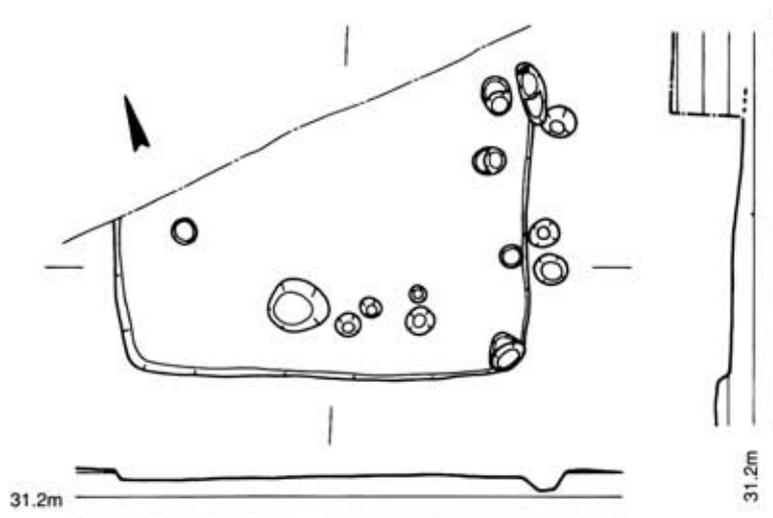


図7 SH02竪穴住居跡 (1/60)

第3章 調査の内容

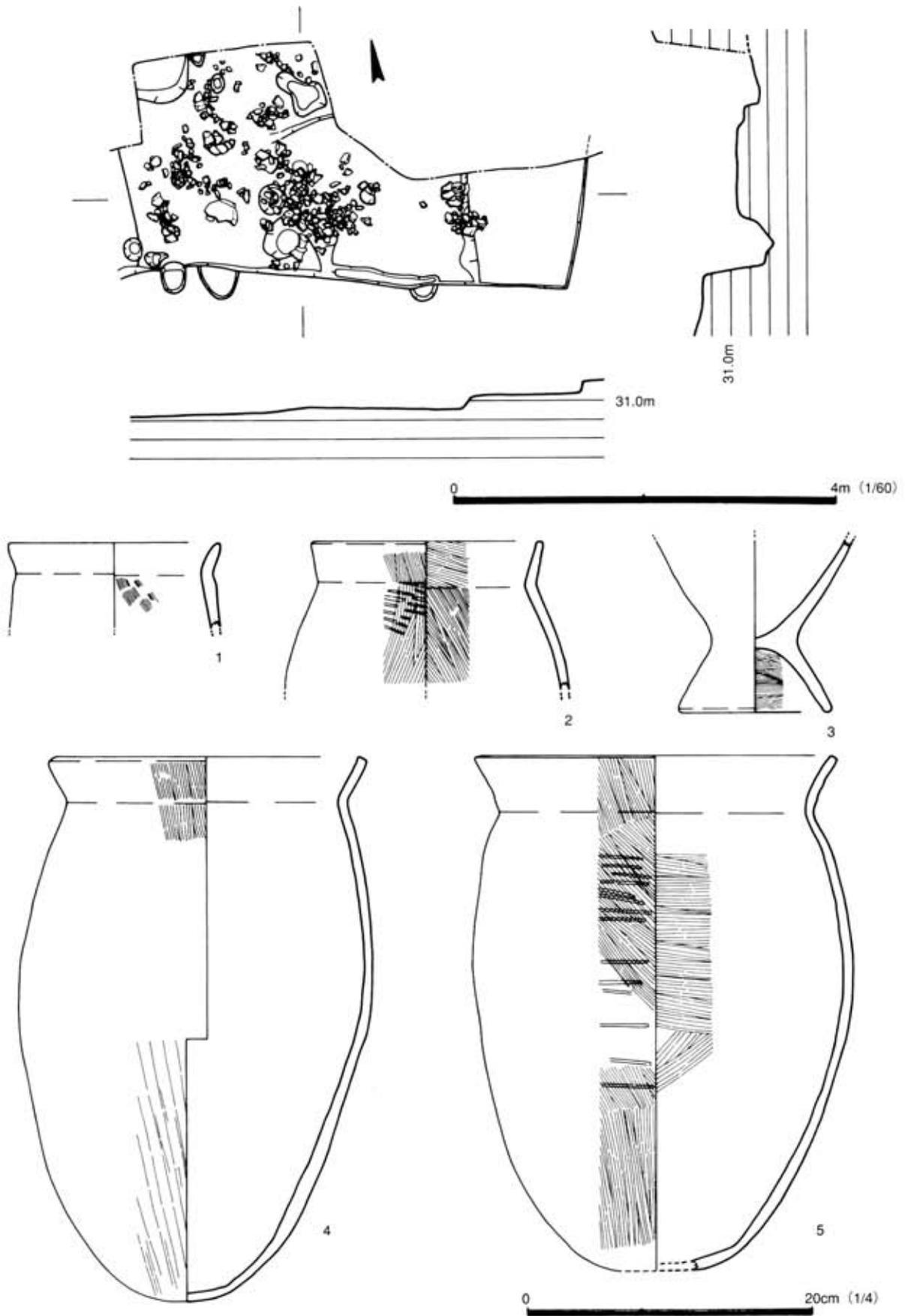


図8 SH05竖穴住居跡 (1/60) と出土遺物 (1/4)

第3章 調査の内容

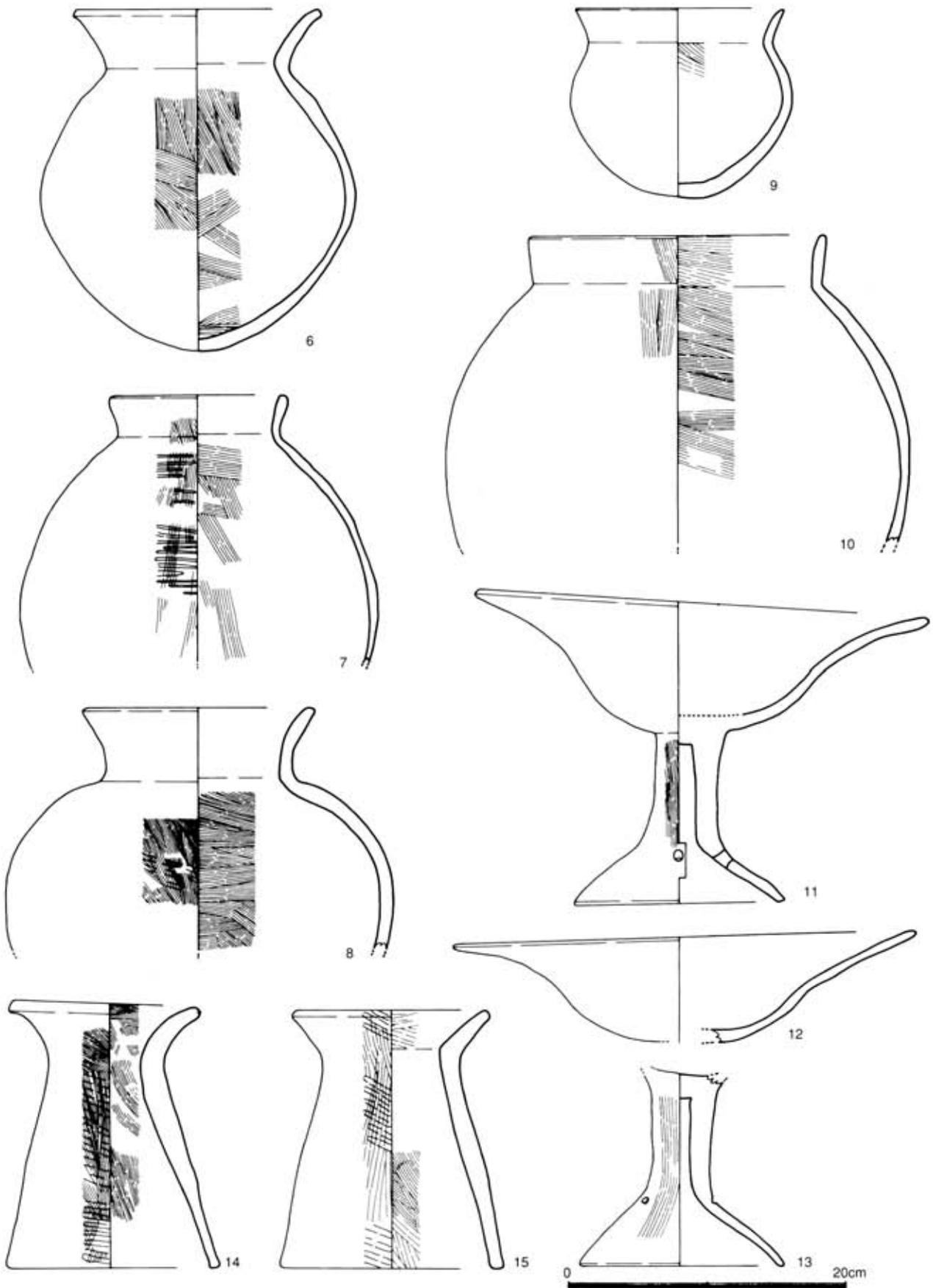


図9 SH05竪穴住居跡出土遺物 (1/4)

### 第3章 調査の内容

#### SH13

調査区中央のやや東側に位置する。削平・攪乱のため、残存状況は良くない。特に北部が攪乱を受けており、全体像は不明。遺構内からは多数の小穴が検出されたが、建物自体に伴うものか否かの判断は困難である。ただし、遺構内の南部中央の土壌は、屋内土壌と認定してよいと考えられる。北部および東部に不整なラインの段差があり、ベッド状遺構の痕跡とも考えられる。遺構には暗褐色土（単一層）が堆積しており、北側および南側に若干の灰褐色土の堆積が認められる。出土した遺物は極めて少なく時期の限定は難しいが、埋土中から惣座式期のものと考えられる甕の小破片が出土している。

#### SH14

調査区東部に位置する。平面形は正方形に近いが南北の辺がやや長い。北東部にベッド状遺構を、南部の壁に沿って屋内土壌をもつ。中央のやや大きな穴、およびその左右の小穴は、炉と柱穴か。埋土中から、弥生時代の土器、石器などが少量出土した。

#### SH15

調査区東側やや南よりに位置する。削平のため全体像は不明。西側および北側の壁に沿って小溝があり、東側にベッド状遺構の痕跡らしき段差がある。この段差をベッド状遺構だと考えれば、南北の辺は6m前後になるだろうか。遺構内には幾つかの小穴があるが、建物自体に伴うものか否かは不明。遺物は全く出土しなかった。

#### SH16

調査区南部やや西よりに位置する。削平のため全体像は不明。かろうじて建物の南西コーナーが確認された。また、壁に沿ってわずかに小溝が確認された。遺物は出土しなかった。

表2 平原遺跡4区 弥生時代竪穴住居跡一覧表

挿図番号	遺構番号	平面形	平面規模	深さ	長軸方向	主柱	炉跡	ベッド	屋内土壌	備 考
図7	SH02	方 形	3.2m×?	0.1m	N-18° -E	?	?	無	無	
図8	SH05	方 形	?×?	0.2m	N-15° -E	?	?	有	有	床面より惣座Ⅱ式土器出土
図10	SH13	方 形	5.4m×?	0.1m	N-20° -E	?	?	有?	有	
々	SH14	正方形	4.3m×3.8m	0.2m	N-16° -E	2?	有?	有	有	
図11	SH15	長方形?	6.0m?×?	0.1m	N-22° -E	2?	有?	有?	?	
々	SH16	方 形	?×?	0.1m	N-18° -E	?	?	?	?	

第3章 調査の内容

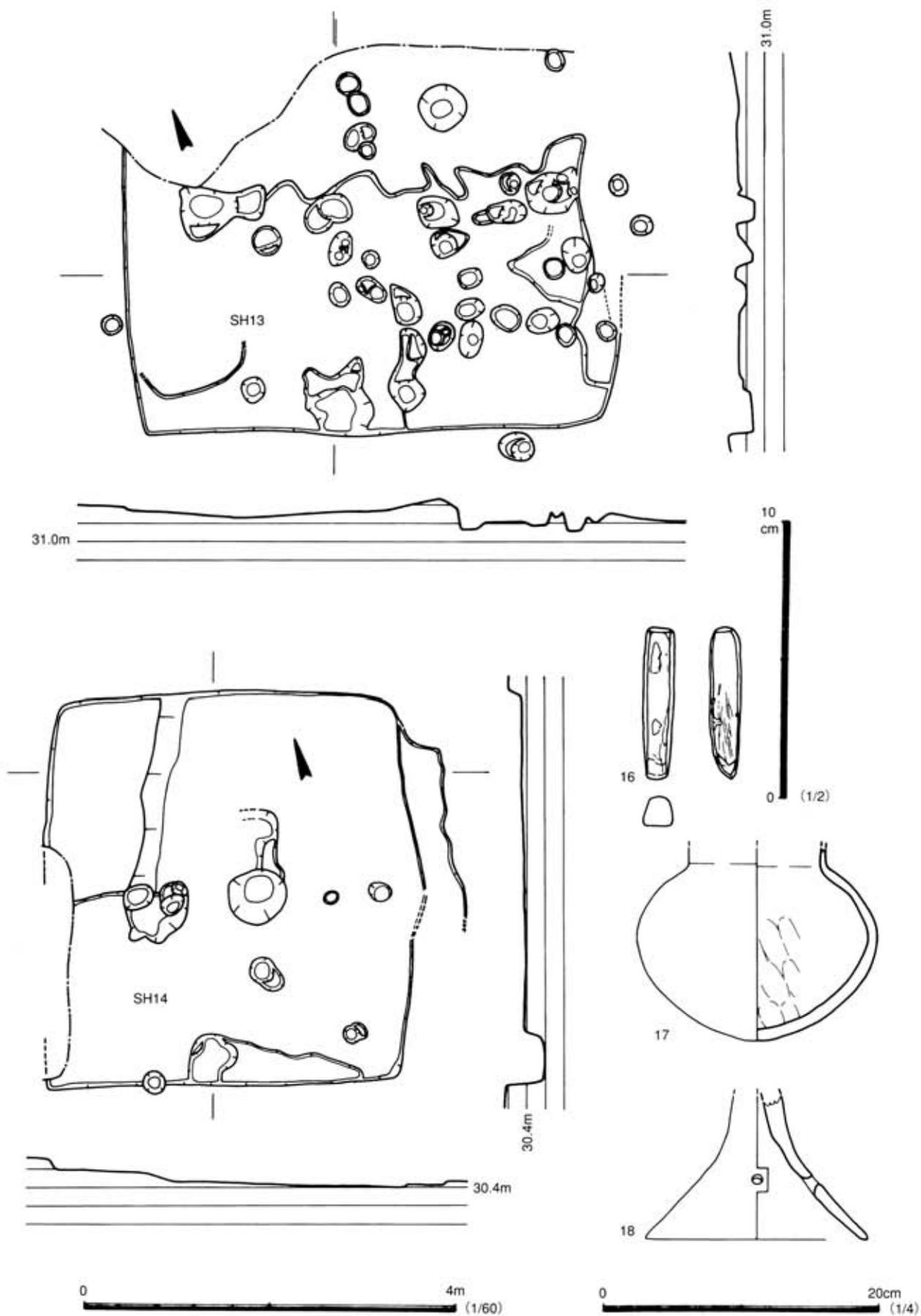


図10 SH13竪穴住居跡(1/60)・SH14竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/2)(1/4)

第3章 調査の内容

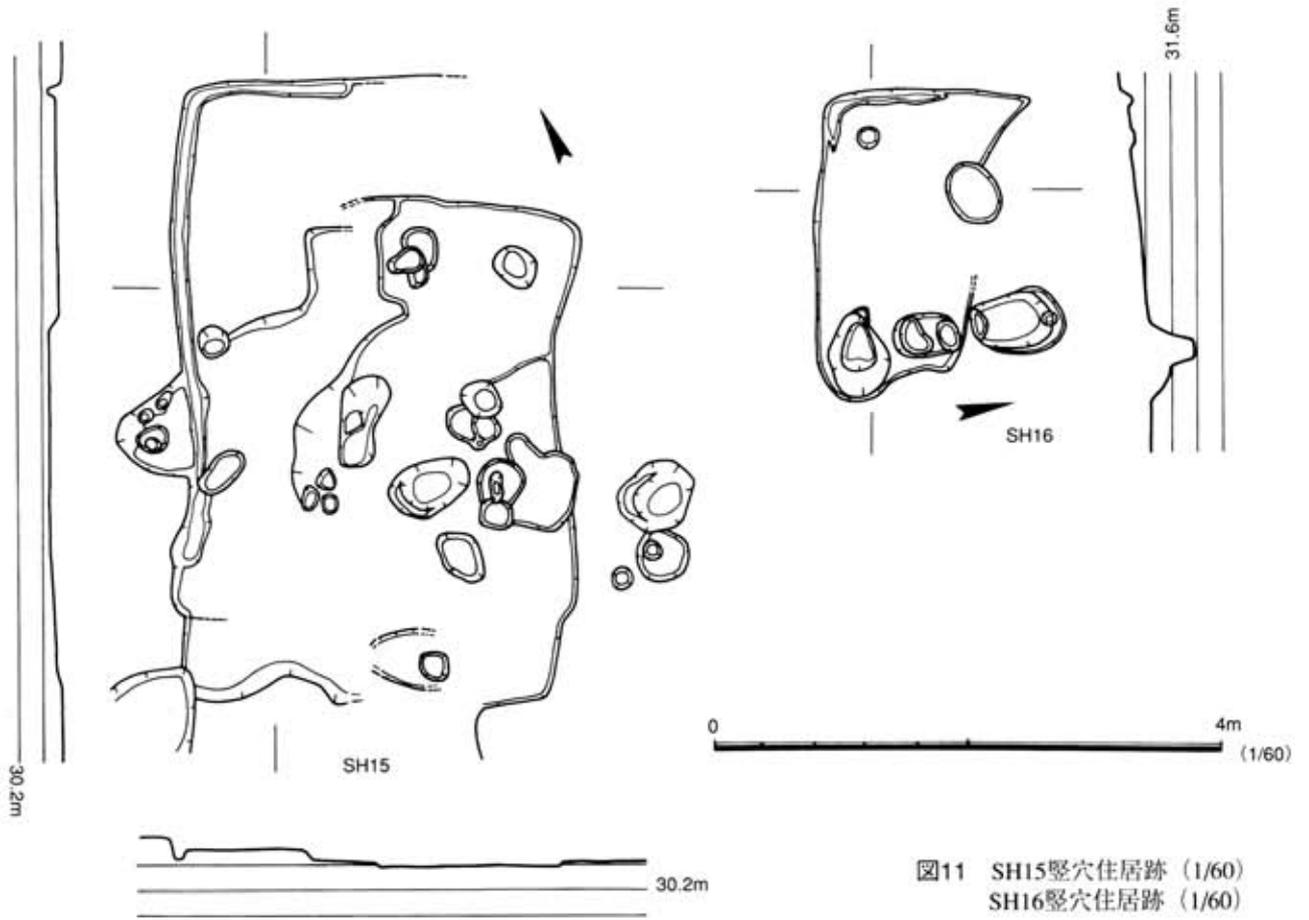


図11 SH15竪穴住居跡 (1/60)  
SH16竪穴住居跡 (1/60)

②溝跡

SD18

調査区の東端から約10mが検出された。幅は0.5m前後、検出面からの深さは0.6m前後である。溝には、下位に暗灰色土、上位に淡褐色土が堆積しており、溝の底部（暗灰色土を中心として）からは10～20cm前後の石が多量に出土した。この石は組まれたものではなく、堆積土中に浮いた状態の石もある。かと言って自然の堆積とは考えられず、人為的な集石であると推定する。溝の性格は明確にし得ないが、おおむね本川川に向かって伸びていることから、排水関係の施設かもしれない。埋土中から弥生土器の小破片が数点出土しただけで、溝の時期を限定する材料はない。出土した弥生土器を手掛かりにし、弥生時代の遺構として報告する。

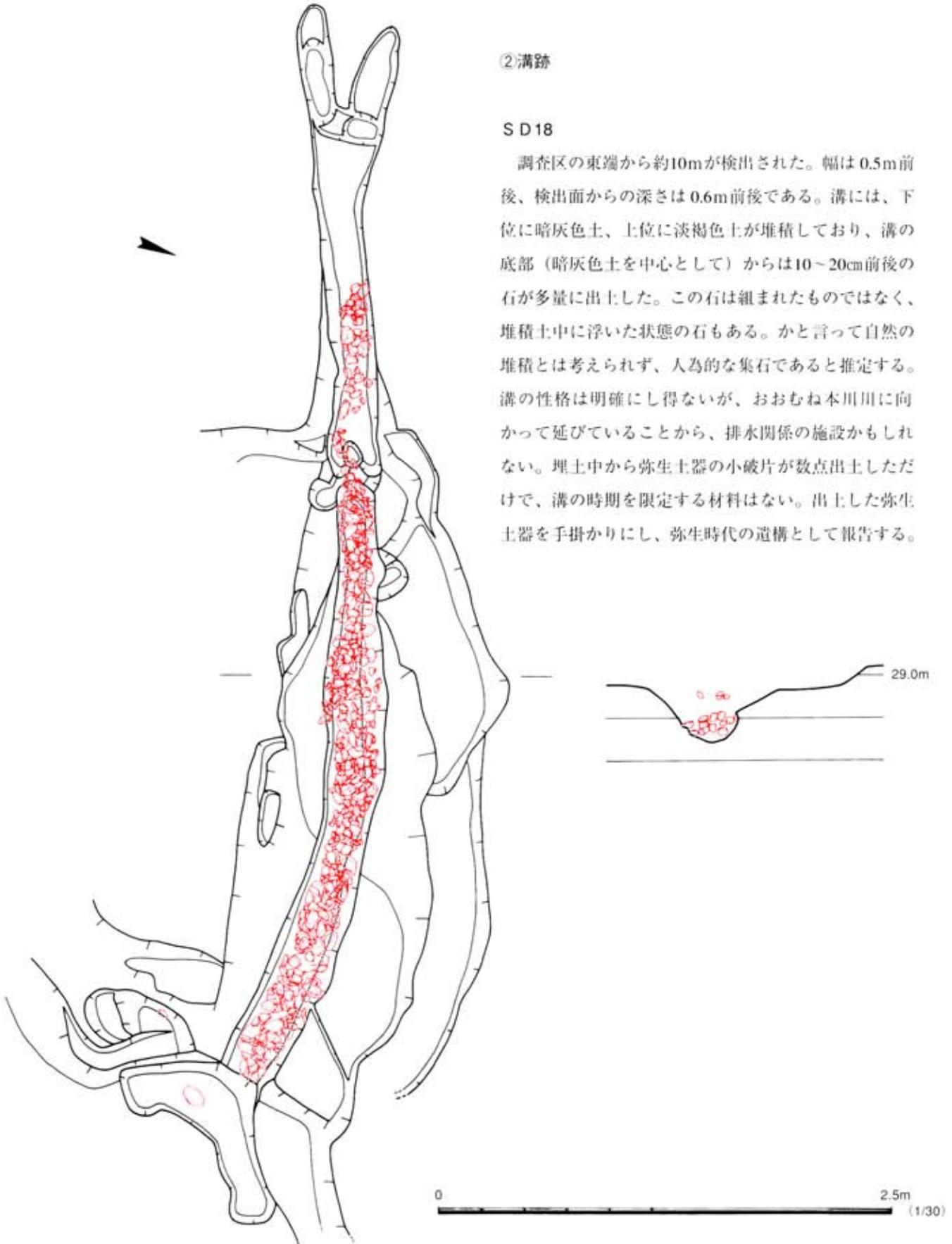


図12 SD18溝跡 (1/30)

### 第3章 調査の内容

#### (4) 古墳時代の遺構と遺物 (図13・写真図版4)

3棟の竪穴住居跡が検出された。

##### SH01

調査区北西部に位置する。削平のため全体は不明だが、平面形は東西辺の長い長方形になろうか。主軸方位は $N-1^{\circ}-W$ で、短辺(南北辺)は約4m。遺構には黒褐色土(単一層)が堆積していた。埋土中から、弥生土器の破片・石のみの他、須恵器の小破片が出土した。

##### SH03

調査区中央北端に位置する。東側のSH04竪穴住居跡より古い。ほとんどが調査区の外になり、全体の姿は不明である。主軸方位は $N-10^{\circ}-W$ 。埋土中から、弥生土器の破片の他、土師器、須恵器の小破片が出土した。

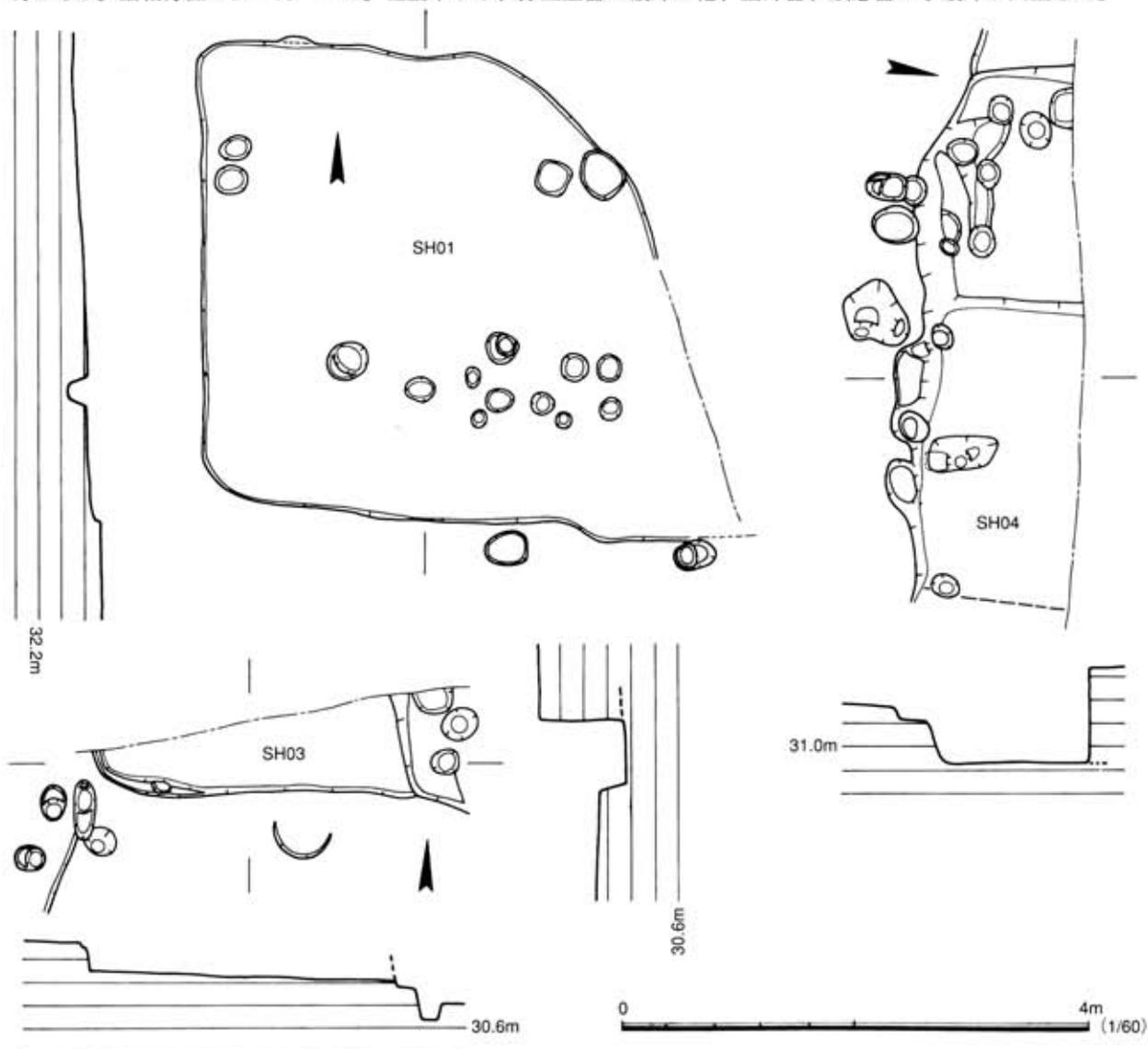


図13 SH01、03、04竪穴住居跡

### 第3章 調査の内容

#### SH04

調査区中央北端に位置しており、西側のSH03竪穴住居跡より新しい。SH03同様、北側のほとんどが調査区の外になり、全体の姿は不明。主軸方位はN-2°-W。東側の壁は明確に検出できなかったが、隣のSH05竪穴住居跡（弥生時代）の遺物出土状況から推定すると、建物の東西の長さは4.5 m前後になろうか。また、西側にベッド状遺構らしき段差があるが、詳細は不明。遺物は全く出土しておらず時期の限定は難しいが、古墳時代の遺構と推定し報告する。

表3 平原遺跡4区 遺物観察表

挿図番号 登録番号	出土遺構	器種	法量 (cm)	調整等	その他
図8-1 95002864	SH05	甕	口径 (14.8) 器高 [ 6.0]	内面ハケ目・外面ナデ・ 口縁部ヨコナデ	浅黄色で砂粒含む 口縁部付近の1/3残存 焼成良好
図8-2 95002888	〃	甕	口径 (16.2) 器高 [10.5]	内面ハケ目・外面タタキ 後ハケ目・口縁端部ヨコ ナデ	にぶい黄橙色で砂粒多く含む 胴部上位の1/3残存 焼成良好
図8-3 95002863	〃	甕	底径 (10.6) 器高 [12.2]	内外面ナデ・台部内面ハ ケ目	台付甕 にぶい黄橙色で砂粒含む 胴部下位の1/2残存・焼成良好
図8-4 95002887	〃	甕	口径 22.3 胴径 24.9 器高 38.4	内面ナデ・外面上位ハケ 目、中位ナデ、下位工具 ナデ	橙色で1~2mmの砂粒多く含む 全体の2/3残存 焼成良好
図8-5 95002883	〃	甕	口径 25.3 胴径 26.4 器高 36.1	内面ハケ目後ナデ・外面 タタキ後ハケ目	にぶい橙色で1~2mmの砂粒多く含む 底部の一部欠損 焼成良好
図9-6 95002862	〃	壺	口径 (17.6) 胴径 (22.5) 器高 24.6	内外面ハケ目・口縁部ヨ コナデ	浅黄褐色で1~2mmの砂粒多く含む 胴部上位2/3欠損 焼成良好
図9-7 95002885	〃	壺	口径 (12.6) 胴径 (25.4) 器高 [19.5]	内面ハケ目・外面タタキ 後ハケ目・口縁部ヨコナ デ	浅黄橙色で細砂粒多く含む 胴部上位の1/2残存 焼成良好
図9-8 95002865	〃	壺	口径 (16.6) 胴径 (27.5) 器高 [17.5]	内面ハケ目・タタキ後ハ ケ目・口縁部ヨコナデ	浅黄橙色で1~2mmの砂粒多く含む 胴部上位の1/2残存 焼成良好
図9-9 95002871	〃	壺	口径 (15.0) 胴径 (15.9) 器高 13.6	内面ナデ、上位ハケ目・ 外面調整不明・口縁部ヨ コナデ	浅黄橙色で1~3mmの砂粒多く含む ほぼ完成 焼成良好
図9-10 95002886	〃	壺	口径 (21.3) 胴径 (33.1) 器高 [22.4]	内面ハケ目・外面ナデ、 上位ハケ目	橙色で1mmの砂粒多く含む 胴部上位の1/2残存 焼成良好

第3章 調査の内容

挿図番号 登録番号	出土遺構	器種	法量 (cm)	調整等	その他
図9-11 95002870	々	高杯	口径 (32.8) 底径 15.0 器高 21.7	杯部内外面ナデ・口縁部 ヨコナデ・脚～裾部外面 ミガキ	にぶい黄橙色で1～2mmの砂粒含む 杯部1/2 裾部2/3欠損 焼成良好・裾部に透かし3ヶ所
図9-12 95002882	々	高杯	口径 32.9 器高 [ 7.2]	内外面ナデ	にぶい黄橙色で1～2mmの砂粒含む 杯部のみ残存・13とは別個体 焼成良好
図9-13 95002884	々	高杯	底径 14.6 器高 [14.2]	脚部外面ミガキ・裾部内 外面ナデ	にぶい黄橙色で細砂粒多く含む 脚～裾部のみ残存・12とは別個体 焼成良好・裾に透かし3ヶ所
図9-14 95002869	々	器台	口径 13.7 底径 15.2 器高 19.4	内面ハケ目・外面タタキ 後ハケ目・口縁部ハケ目 後ナデ	にぶい橙色で1～2mmの砂粒多く含む 口縁部、底部の一部欠損 焼成良好
図9-15 95002866	々	器台	口径 (14.2) 底径 16.0 器高 18.7	内面上位ハケ目後ナデ、 下位ハケ目・外面タタキ 後ハケ目	にぶい黄橙色で1～2mmの砂粒含む 全体の2/3残存 焼成良好
図10-16 96002503	SH14	石のみ	長さ 5.5 幅 1.2 厚さ 1.1	全体的に磨耗が激しく 細かい調整不明。 刃部は若干外湾する。	
図10-17 95002867	々	壺	胴径 (17.2) 器高 [14.0]	内面ナデ、一部指頭圧痕 外面調整不明	にぶい黄橙色で2～3mmの砂粒含む 底部～頸部の1/3残存 焼成良好
図10-18 95002868	々	高杯	底径 (16.0) 器高 [10.5]	内外面とも調整不明	橙色で1～2mmの砂粒多く含む 脚～裾部のみ残存、一部欠損 裾部に透かし3ヶ所

法量 ( ) 内は復元値・ [ ] 内は残存値

2. 平原遺跡6区

(1) 概要

平原遺跡は、大久保遺跡から東側に続く標高54～30mの段丘群と段丘群東側の本川川に面する標高25～20mの扇状地に大別できる。このうち平原遺跡6区は平原遺跡4区とともに、本川川北岸の標高約45mの段丘の東側の裾部に当たる。調査区の地形を概観すると、4区から連なる北東部の狭少な平坦面と、平原古墳を頂に置く丘陵の斜面に大別できる。調査着手前は、丘陵裾部の平坦面は田畑、丘陵の斜面は茶畑・蜜柑畑として利用されていた。斜面に数段の段差があるのは、茶畑・蜜柑畑の開墾の際に生じたものらしい。

平原遺跡6区の調査面積は2,800㎡で、平成7年1月～3月に調査された。調査区は全体的に削平が激しく、特に斜面地は表土を除去するとすぐに花崗岩質の岩盤が露出した。調査区からは弥生時代の竪穴住居跡1棟・土壇4基、古墳時代の竪穴住居跡1棟などが検出された。以下、時代別に遺構・遺物について説明する。

(2) 弥生時代の遺構と遺物 (図14～17・写真図版6)

① 竪穴住居跡

SH 024 (図14)

調査区の西端から検出された、ベッド状遺構をもつ方形の竪穴住居跡である。北側が調査区の外になるため全体の姿は不明である。主軸方位はN-20°-Wで、東西辺は5.3m。西部で方形の掘り込みと重複するが、遺物が出土しておらず時期は不明。また、北東部に攪乱を受ける。炉跡、柱穴などは不明。埋土中から弥生時代中期代の土器の破片が出土した。

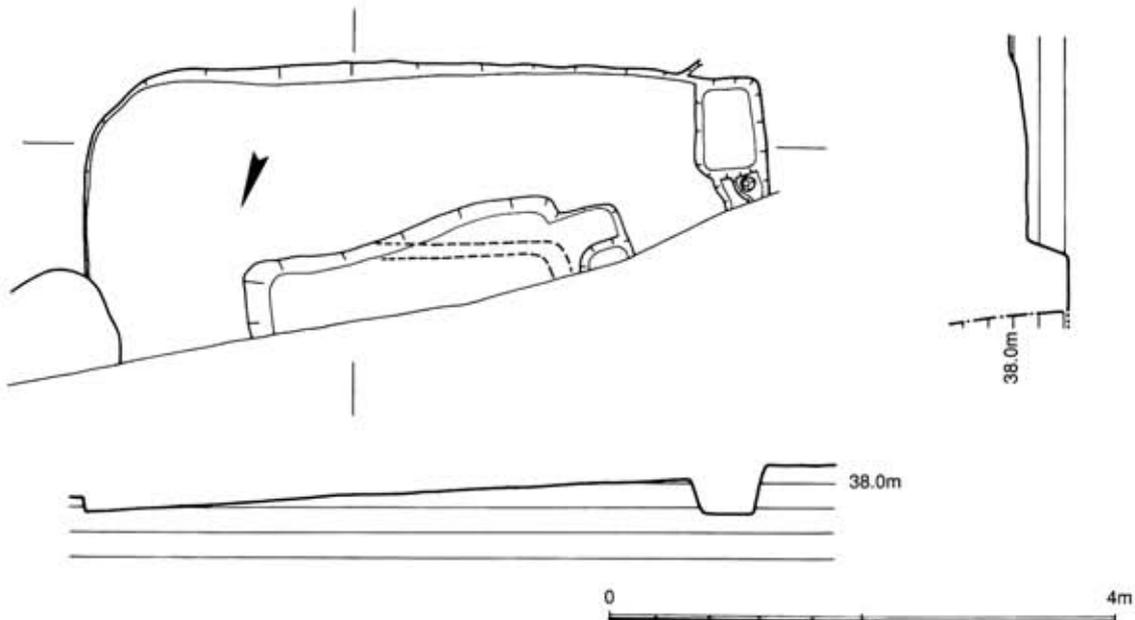


図14 SH024竪穴住居跡 (1/60)

第3章 調査の内容

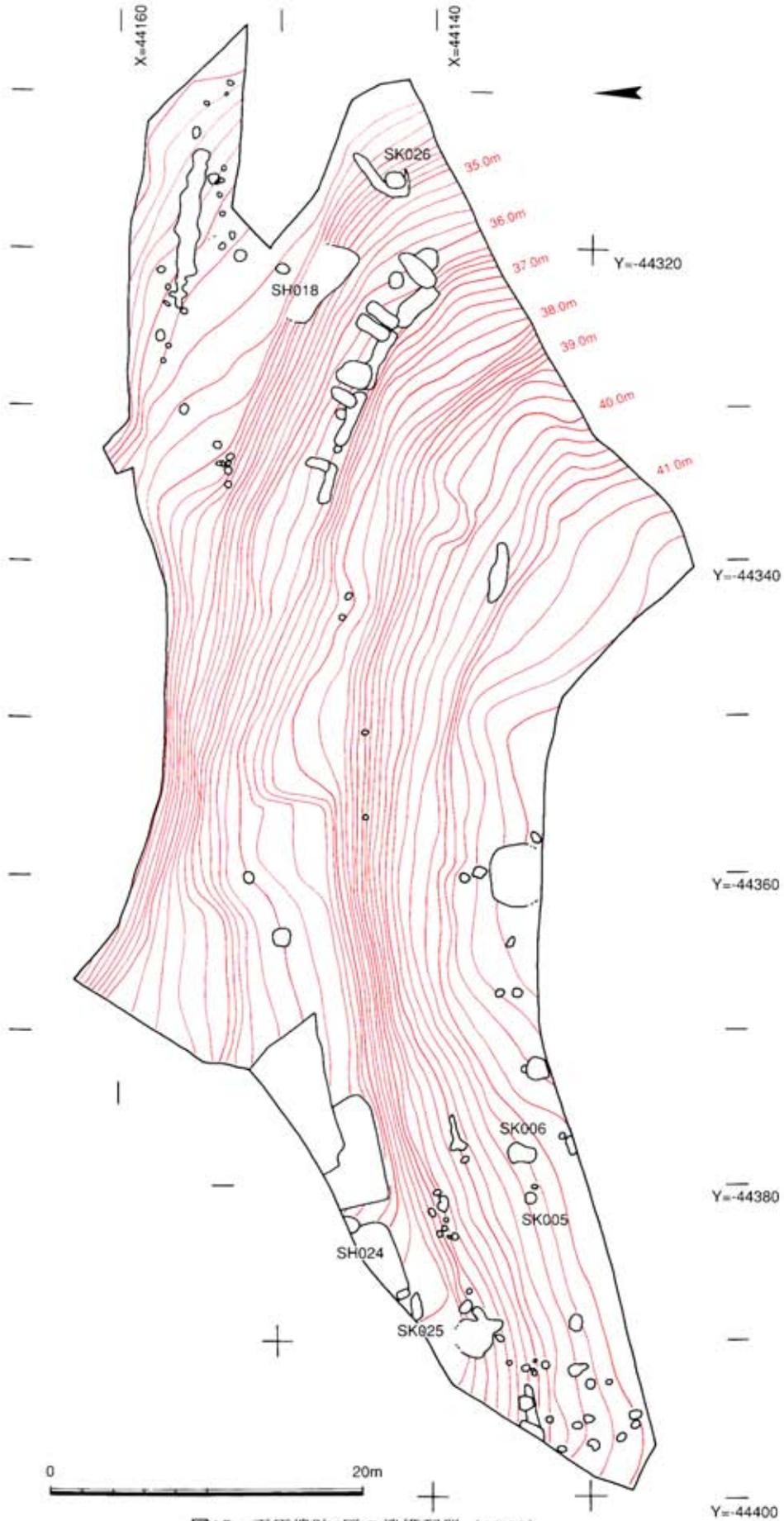


図15 平原遺跡6区の遺構配置 (1/400)

### 第3章 調査の内容

#### ②土壌

4基が検出された。遺構の概要を述べ、遺物の詳細は表4（P31）に記す。

#### S K 005 (図17)

調査区南部の斜面上位から検出された土壌で、平面は65×53cmの不整楕円形で、検出面から最深部までの深さは84cmである。底面の北部～東部に平坦面があり、南西部が深くなっている。遺構には、軟質の暗褐色土（単一層）が堆積していた。埋土中から弥生時代の甕・壺・石包丁が出土した。土壌の性格は不明である。

#### S K 006 (図17)

調査区南部の斜面上位から検出された土壌で、長さは185cm、最大幅は140cmである。底面はほぼ平らで、東部に浅い段差をもつ。検出面からの最深部までの深さは30cmである。遺構には、軟質の暗褐色土（単一層）が堆積していた。埋土中から、弥生時代の甕・壺が出土した。また、埋土には2～3cmから拳大の焼土ブロックが若干混ざっていた。土壌の性格は不明である。

#### S K 025 (図16)

調査区の北西部、S H 024竪穴住居跡の西側から検出された不整長方形の土壌である。東端で小穴と重複するが新旧関係は不明。長さは推定で160cm、幅は65cm、検出面からの最深部までの深さは90cmである。土壌の底面は中ほどが高く、両側が低くなっている。また、内部から平らな石が出土したが、浮いた状態で出土しており、遺構に伴うものではなさそうである。遺構には、軟質の黒褐色土（単一層）が堆積していた。埋土の中層～下層から弥生土器の小破片が出土した。形・規模から土壌墓である可能性も考えられる。

#### S K 026 (図16)

調査区の北東端から検出された楕円形の土壌である。長径は125cm、短径は100cm、検出面からの最深部までの深さは35cmである。底面はほぼ平らで北側に段差をもつ。遺構には、軟質の黒褐色土（単一層）が堆積していた。埋土中から弥生時代中期代のもと考えられる甕の破片が出土した。土壌の性格は不明である。

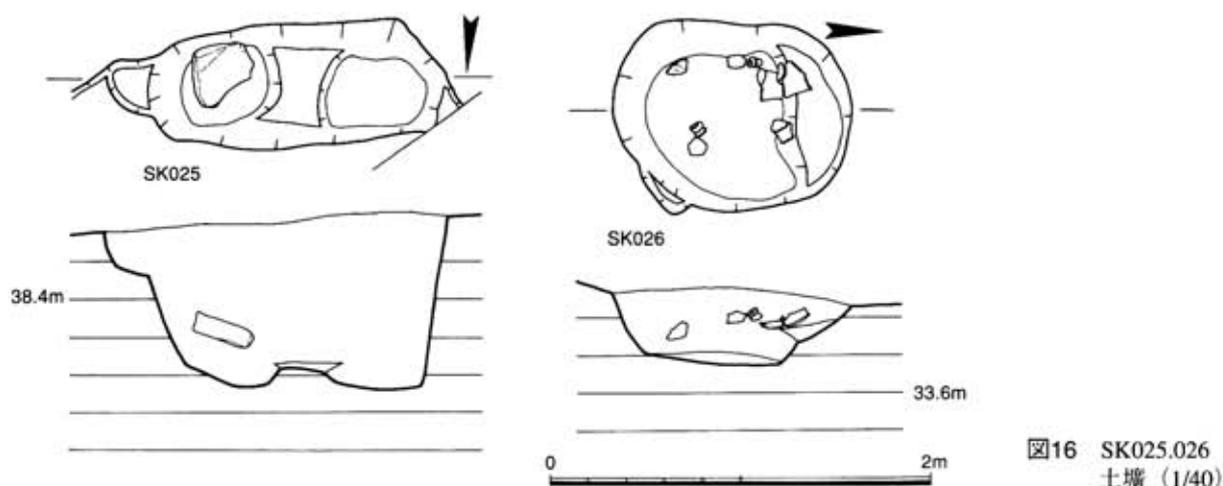


図16 SK025.026  
土壌 (1/40)

第3章 調査の内容

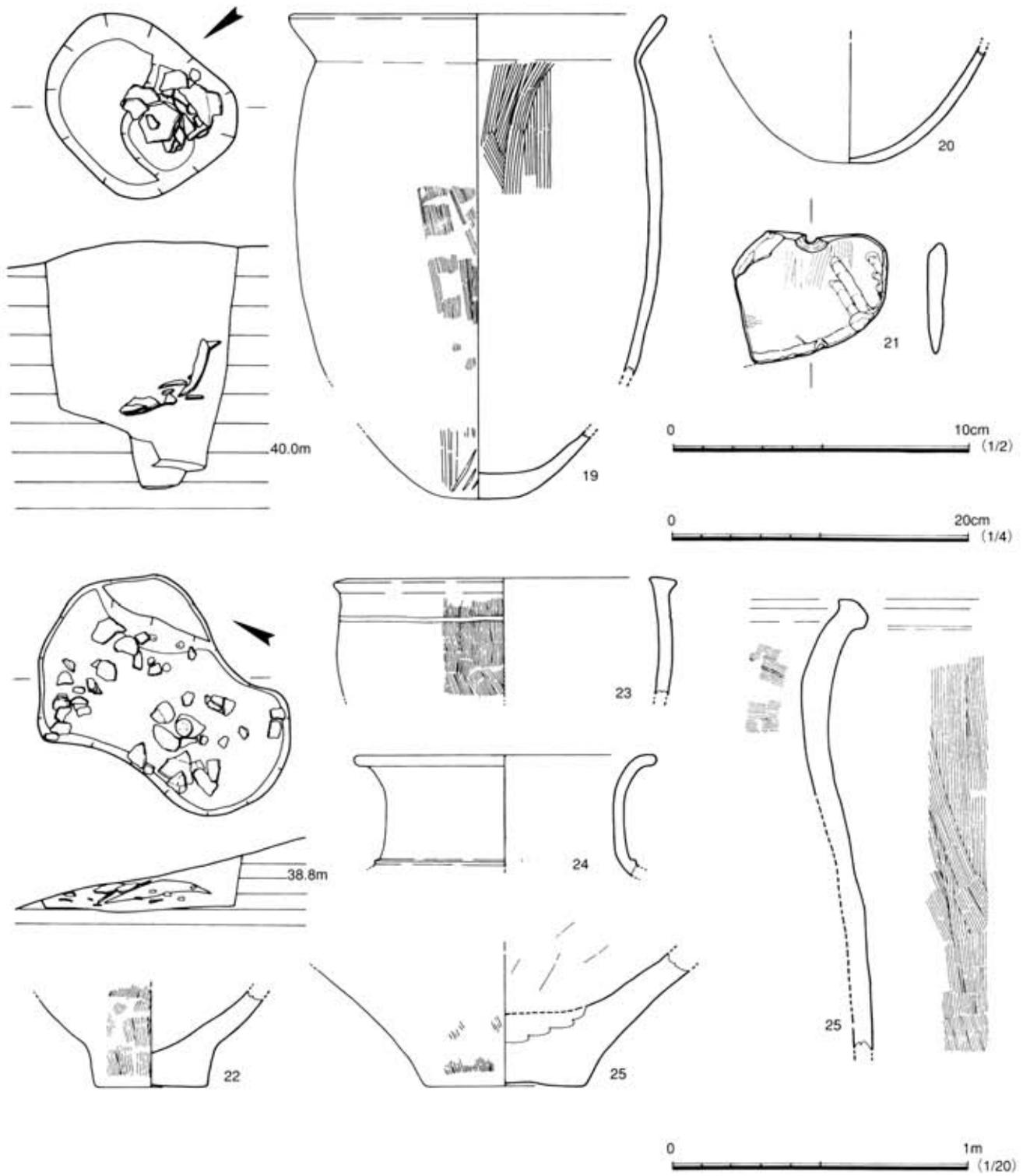


図17 SK005 土壌 (1/20)と出土遺物 (1/2) (1/4)・SK006 土壌 (1/20)と出土遺物 (1/4)

### 第3章 調査の内容

表4 平原遺跡6区 遺物観察表

挿図番号 登録番号	出土遺構	器種	法量 (cm)	調整等	その他
図17-19 95002881	SK005	甕	口径 (25.4) 底径 24.6 器高 [33.0]	内外面ハケ目・口縁部ヨコナデ	にぶい黄褐色で1~2mmの砂粒多く含む 全体の1/2残存 焼成良好
図17-20 95002880	々	甕	器高 [ 8.5]	内外面とも調整不明	明赤褐色で1~2mmの砂粒多く含む 胴部下位~底部の一部残存 焼成良好
図17-21 96002506	々	石包丁	長さ [ 5.1] 幅 [ 4.5] 厚さ [ 0.6]	脊、刃端および片面を研磨	緑泥片岩製 破損後、砥石に転用か もともと大型の石包丁か
図17-22 95002859	SK006	甕	底径 7.8 器高 6.6	内面ナデ・外面ハケ目	明黄褐色で1~3mmの砂粒多く含む 底部のみの破片 焼成良好
図17-23 95002858	々	甕	口径 (23.0) 底径 (22.6) 器高 [ 8.0]	内面ナデ・外面ハケ目 口縁部ヨコナデ 口縁部下に沈線1条	にぶい橙色で1~2mmの砂粒多く含む 胴部~口縁部の1/4残存 焼成良好・外面に煤付着
図17-24 95002854	々	壺	口径 (20.4) 器高 [ 8.7]	内面ナデ・外面~口縁部 ヨコナデ 頸部に貼付突帯1条	にぶい黄褐色で1~3mmの砂粒多く含む 頸部~口縁部の破片 焼成良好・外面に煤付着
図17-25 95002861	々	甕	底径 (10.6)	内面上位ハケ目、下位工 具ナデ・外面ハケ目、下 位ハケ目後ナデ	明黄褐色で1~3mmの砂粒多く含む 胴部上位および底部の破片 焼成良好

法量 ( ) 内は復元値・ [ ] 内は残存値

### 第3章 調査の内容

#### (3) 古墳時代の遺構と遺物 (図18写真図版6)

##### ① 竪穴住居跡

##### SH 018 (図18)

調査区の北東端に位置する。北側が大きく削平されており、全体の姿は不明である。西端は立木の抜根により攪乱を受ける。主軸方位はN-39°-Eで、東西辺は約5.5m、検出面からの床面までの深さは最深部で60cmである。遺構には、軟質の黒褐色土(単一層)が堆積していた。埋土中から弥生土器の破片、土師器・須恵器の破片などが出土した。

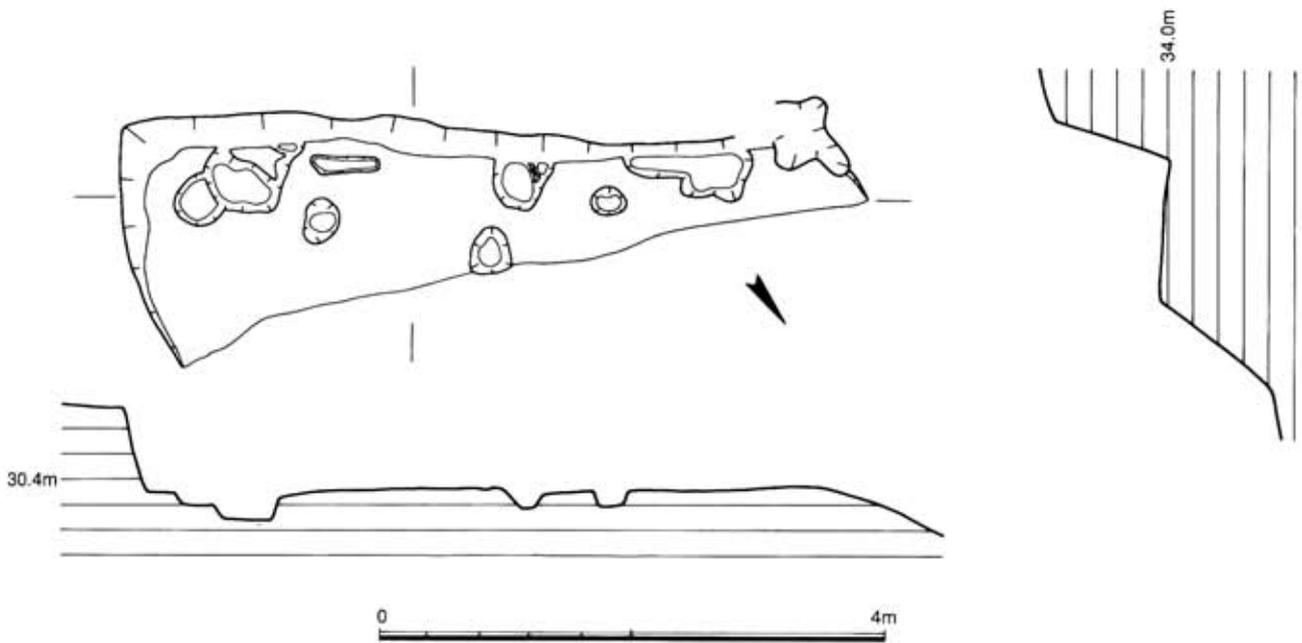


図18 SH018竪穴住居跡 (1/60)

#### 3.大久保遺跡4区

##### (1) 概要

大久保遺跡は、鳥栖市柚比町字大久保に所在しており、今町梅坂西遺跡・大久保北遺跡から大久保遺跡を介して平原遺跡まで連なる標高30～50mの入り組んだ段丘群を中心に展開する。遺構の密度は、段丘の南斜面（段丘南側の本川川に面する斜面）が高い。本報告の大久保遺跡4区は、この斜面の下位に位置しており、丘陵の裾部であると同時に、本川川の開析により生じた低平な河川敷に真向かう位置にあたる。

大久保遺跡4区の北側の丘陵は、新都市開発事業に伴い大久保遺跡6区として調査されており、弥生時代中期～後期と古墳時代後期を中心とした集落跡であることが判明している。また、丘陵の東端には、総数300基を超える弥生時代中期代の甕棺墓地がある。丘陵の裾部～低平部についてみると、大久保遺跡4区より西側が大久保遺跡2区および6区として調査されており、同じく弥生時代中期～後期と古墳時代後期の集落跡の存在が明らかになっている。本川川をはさんだ南側一帯は安永田遺跡として周知化されており、安永田遺跡4～6区として調査されている。その結果、弥生時代中期～後期の集落跡、中期代の甕棺墓地などの存在が明らかになっている。

大久保遺跡4区の調査面積は2,500㎡で、平成6年3月に調査された。なお、調査地区の西側部分の約400㎡については、遺構が検出されなかったため報告からは除外している。調査区からは、弥生時代の竪穴住居跡15棟・土壇2基・甕棺墓1基、古墳時代の竪穴住居跡1棟などが検出された。他に溝跡が数条認められるが、残存状況が良くないことと、遺物が少ないことから時期は限定し難い。ただし、S D4502に関しては、S H4108竪穴住居跡に切られることから住居跡より古いものと考えられる。なお、調査区からは小穴が少なからず検出されたが、建物の存在を示す所見は得られていない。

##### (2) 弥生時代の遺構と遺物（図20～30・写真図版7～10.14.15）

###### ①竪穴住居跡

15棟の竪穴住居跡が検出された。これらは、概ね調査区中央と西側に集中しており、1基を除きすべて方形プランのものと考えられる。以下、遺構ごとに概略を述べ、遺構の規模・方位などの数値は表5（P45）に、遺物の調整・特徴などは表6（P48）に記す。

###### S H4101竪穴住居跡（図20）

調査区西端に位置する。削平のため全体の姿は不明である。南東側のS H4103より古い。また、南西側のS H4102とは重複が微妙で新旧関係は明らかでない。住居内の2ヶ所に厚い炭化物まじりの焼土が堆積しており、堆積物の中ほどが窪んでいることから、この下に何らかの穴が存在したことが推定される。埋土中から弥生時代の甕、壺、高杯などの破片が出土した。

###### S H4102竪穴住居跡（図20）

S H4102は、調査区西端に位置する小規模な住居跡である。北東側に位置するS H4101との新旧関係は不明である。埋土中から弥生時代の甕、壺、高杯などの破片が出土した。

第3章 調査の内容

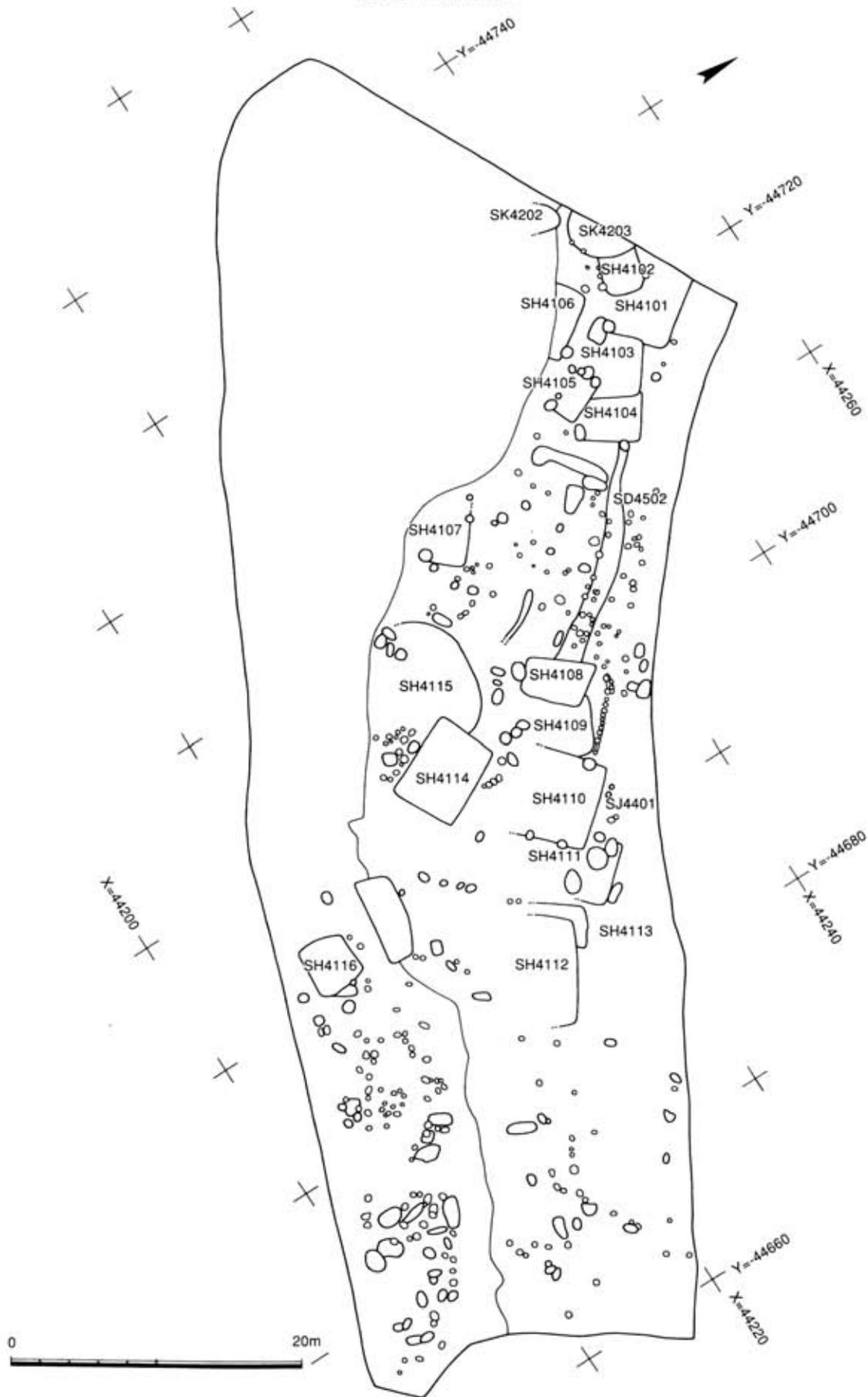


図19 大久保遺跡4区の遺構配置 (1/400)

### 第3章 調査の内容

#### S H4103 竪穴住居跡 (図21)

S H4103は調査区西端に位置しており、S H4101・S H4104より新しく、S H4105より古い。住居内の5ヶ所に炭化物の塊がみられる。埋土中から弥生時代中期代のものと考えられる甕、壺などの破片が出土した。

#### S H4104 竪穴住居跡 (図21)

S H4104は調査区西端に位置しており、S H4103・S H4105より古い。また、S D4502溝跡より新しい。住居内に小穴・土壌が認められるが、住居に伴うものか否かは不明。埋土中から弥生時代中期代の甕・壺・鉢などの破片が出土した。

#### S H4105 竪穴住居跡 (図22)

調査区西端に位置しており、S H4103より新しい。削平のため全体の姿は不明である。東側の壁に沿って小溝がある。遺物は出土しておらず、また、S H4103より新しいということが判るだけで時期は明確にし難いが、弥生時代の遺構として報告する。

#### S H4106 竪穴住居跡 (図22)

S H4106は調査区西端に位置する。南西側は大きく削平されており、全体の姿は不明。北東側の壁に沿って短い溝がある。住居内の北西部に炭化物を含んだ焼土の塊がある。埋土中から弥生時代甕の破片が出土した。

#### S H4107 竪穴住居跡 (図22)

調査区中央のやや西よりに位置する小型の住居跡である。北西部が削平を受けており全体の姿は不明。住居内に多数の土壌があるが、この住居跡に伴うものか否かは不明。埋土中から弥生時代の甕・高杯などの破片が出土した。

#### S H4108 竪穴住居跡 (図23)

調査区中央のやや北西よりに位置する歪な住居跡である。S H4109竪穴住居跡・S D4502溝跡より新しい。埋土中から弥生時代の甕・壺の破片が出土した。

#### S H4109 竪穴住居跡 (図23)

S H4108の東側に位置する。S H4108およびS H4110より古い。削平のため全体の姿は不明。住居内に小穴や土壌があるが、当住居跡に伴うものか否かは不明。遺物は出土しなかった。

#### S H4110 竪穴住居跡 (図24)

調査区ほぼ中央に位置する大型の住居跡である。S H4109およびS H4111より新しい。住居内の中央やや北東よりの2ヶ所に焼土がある。中央の土壌は炉跡か。柱穴は明確にし得なかった。埋土中から弥生時代の甕・壺・高杯などの破片が出土した。

### 第3章 調査の内容

#### S H4111 竪穴住居跡 (図25)

調査区中央のやや東よりに位置する。削平のため全体の姿は不明である。また、明確ではないものの、S H4110より古いものと考えられる。埋土中から弥生時代の甕・高杯などの破片が出土した。

#### S H4116 竪穴住居跡 (図25)

調査区中央南側に位置する小型の住居跡である。遺物は出土しておらず、また、他の遺構との重複関係もないことから時期は明確にし得ないが、他の弥生時代の遺構と同様の土が堆積しており、弥生時代の遺構と推定し報告する。

#### S H4112 他穴住居跡 (図26)

調査区中央やや東側に位置する竪穴住居跡で、S H4113より新しい。削平のため全体の姿は不明。壁が残存していたのは北東側だけで、北西側および南東側は壁溝のみ残存していた。住居内に土壌・小穴が多数あるが、住居跡との関連は不明である。埋土中から弥生時代の甕の破片が出土した。

#### S H4113 竪穴住居跡 (図26)

調査区中央やや東側に位置する竪穴住居跡で、S H4112より古い。S H4112と重複する部分が大きく、全体の姿は不明。南北辺が短く、住居跡ではない可能性もある。埋土中から弥生時代の甕・鉢などの破片が出土した。

#### S H4115 竪穴住居跡 (図27)

調査区中央やや南西よりに位置する円形の竪穴住居跡である。削平のため全体の姿は不明であるが、復元すれば直径9 m前後になろうか。南東側は、S H4114 (古墳時代) と重複し壊されている。壁に沿って小溝が巡っている。住居跡の中心近くに大型の土壌が幾重にもあるが、住居跡に伴うものか否かは不明。また、柱穴も不明。埋土中から弥生時代の甕の破片が出土した。

第3章 調査の内容

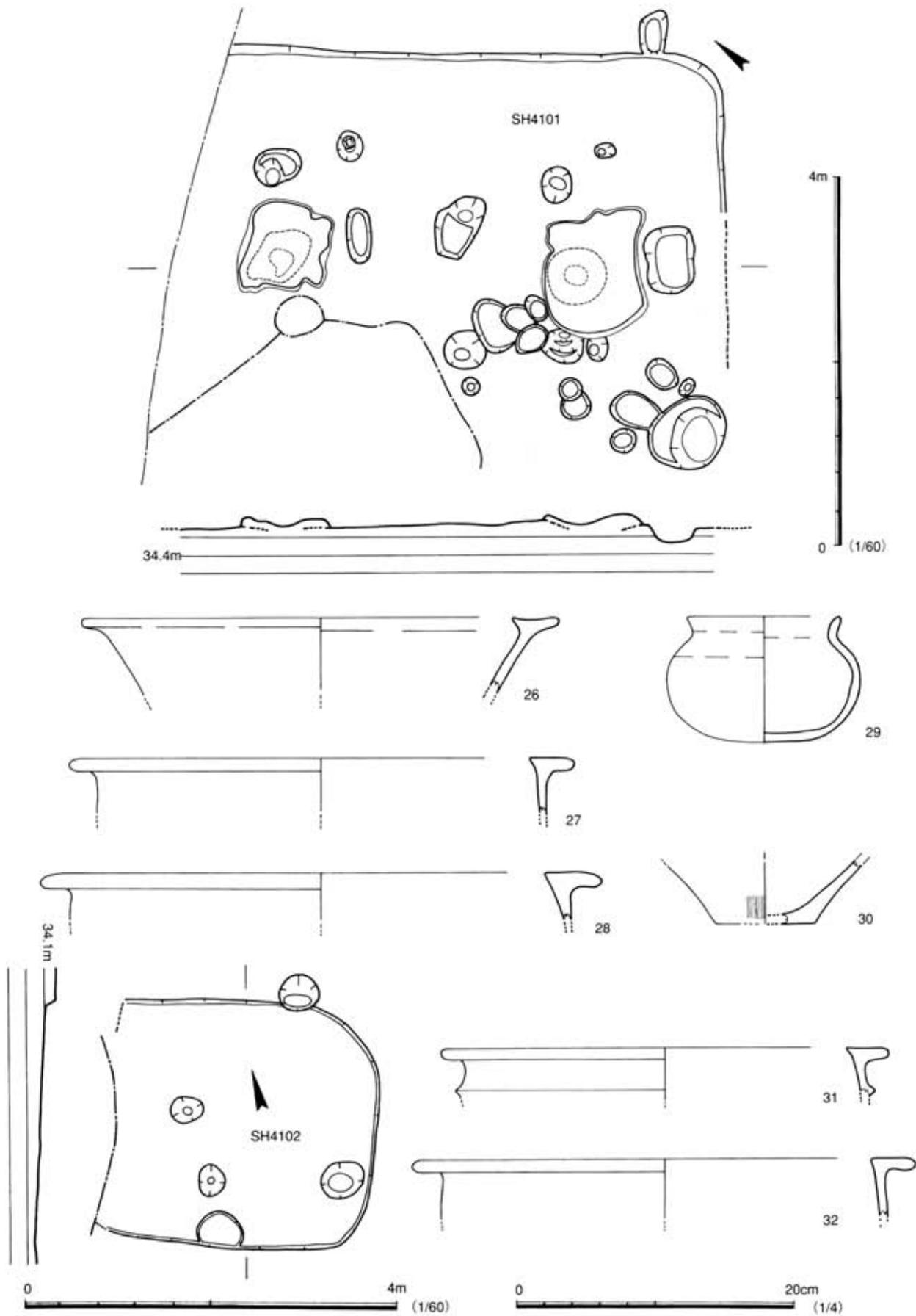


図20 SH4101 竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4)、SH4102 竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4)

第3章 調査の内容

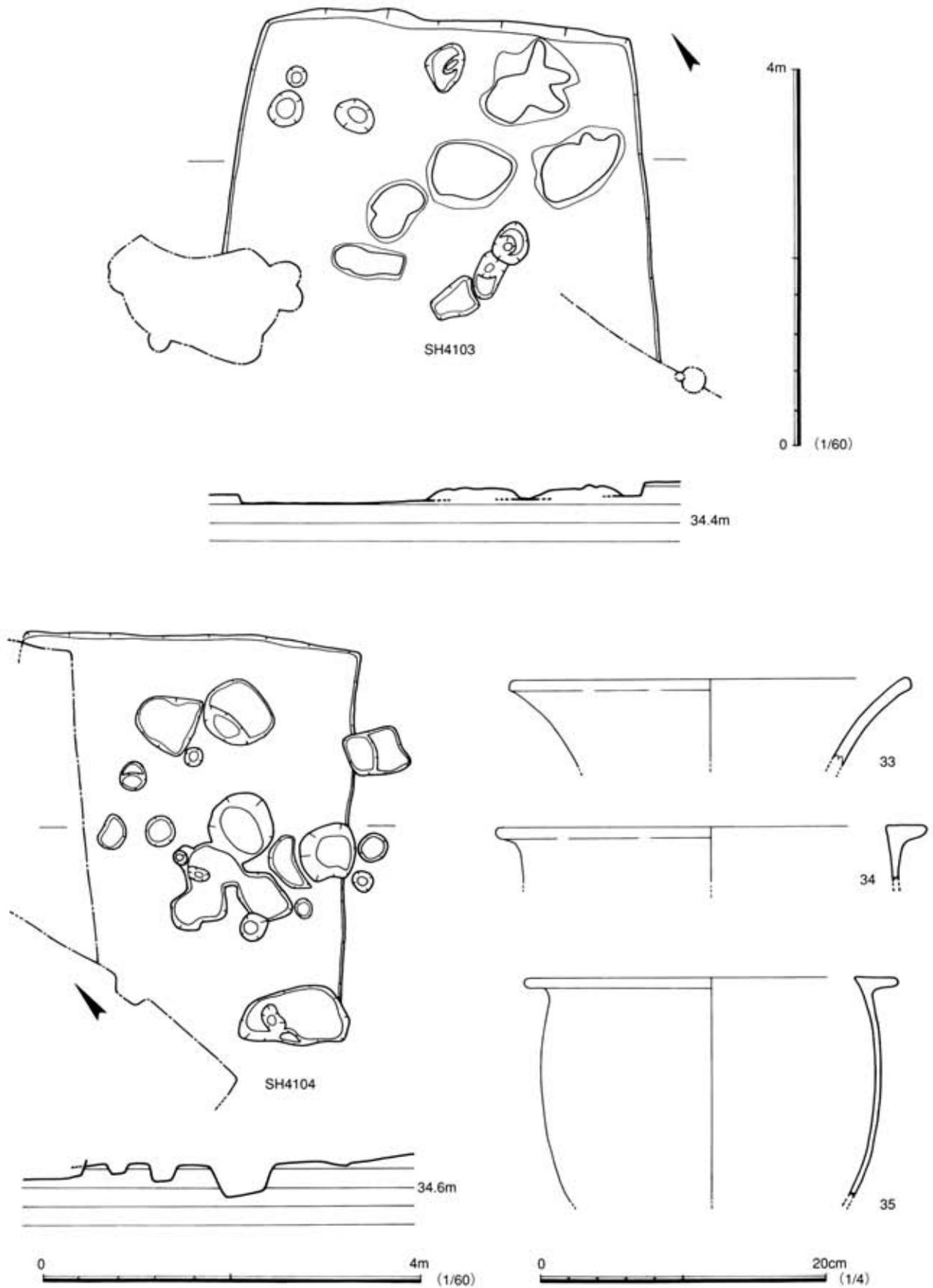


図21 SH4103竪穴住居跡(1/60)、SH4104竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4)

第3章 調査の内容

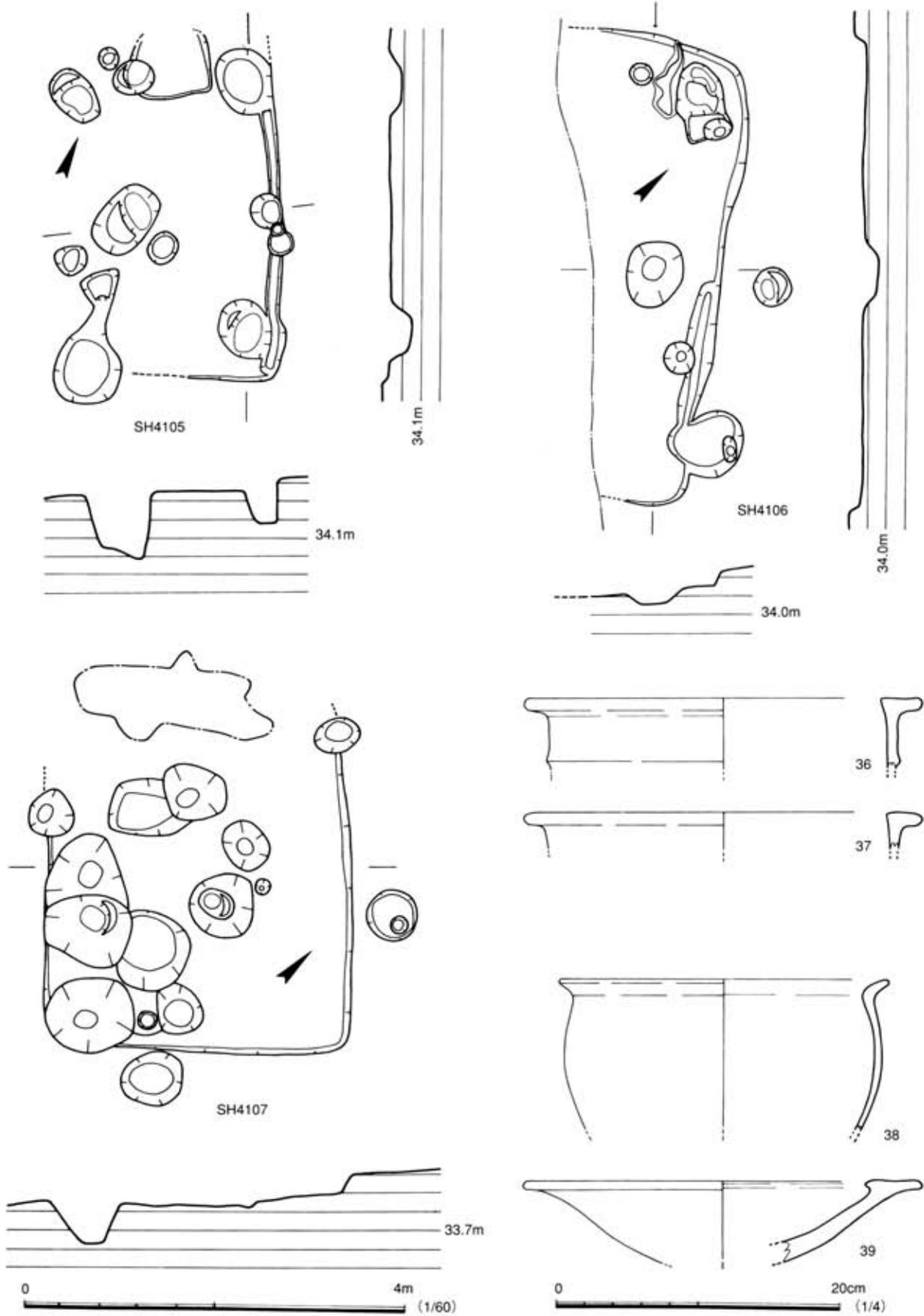


図22 SH4105竪穴住居跡(1/60)、SH4106竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4)、SH4107竪穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4)

第3章 調査の内容

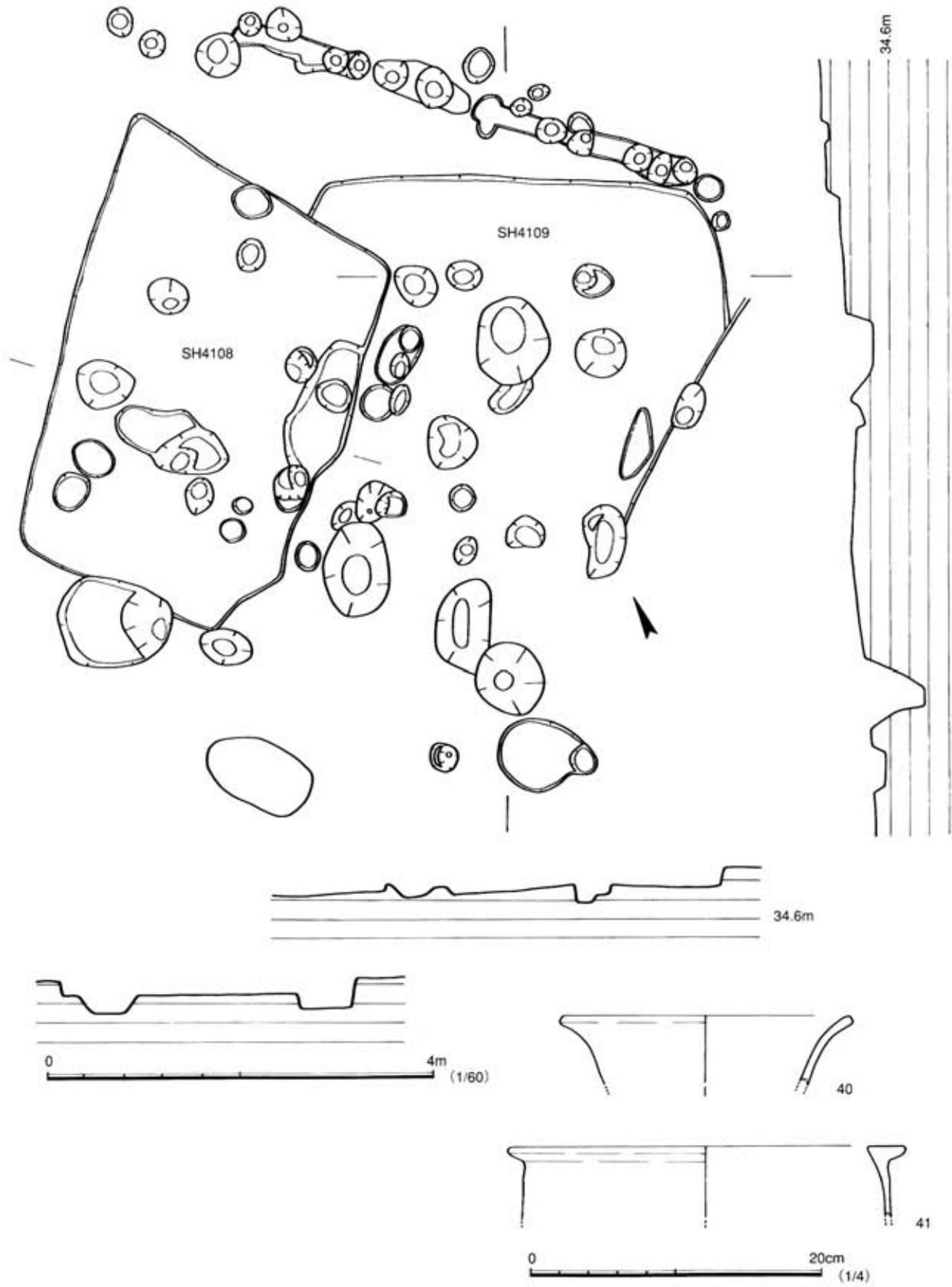


図23 SH4108堅穴住居跡(1/60)と出土遺物(1/4)、SH4109堅穴住居跡(1/60)

第3章 調査の内容

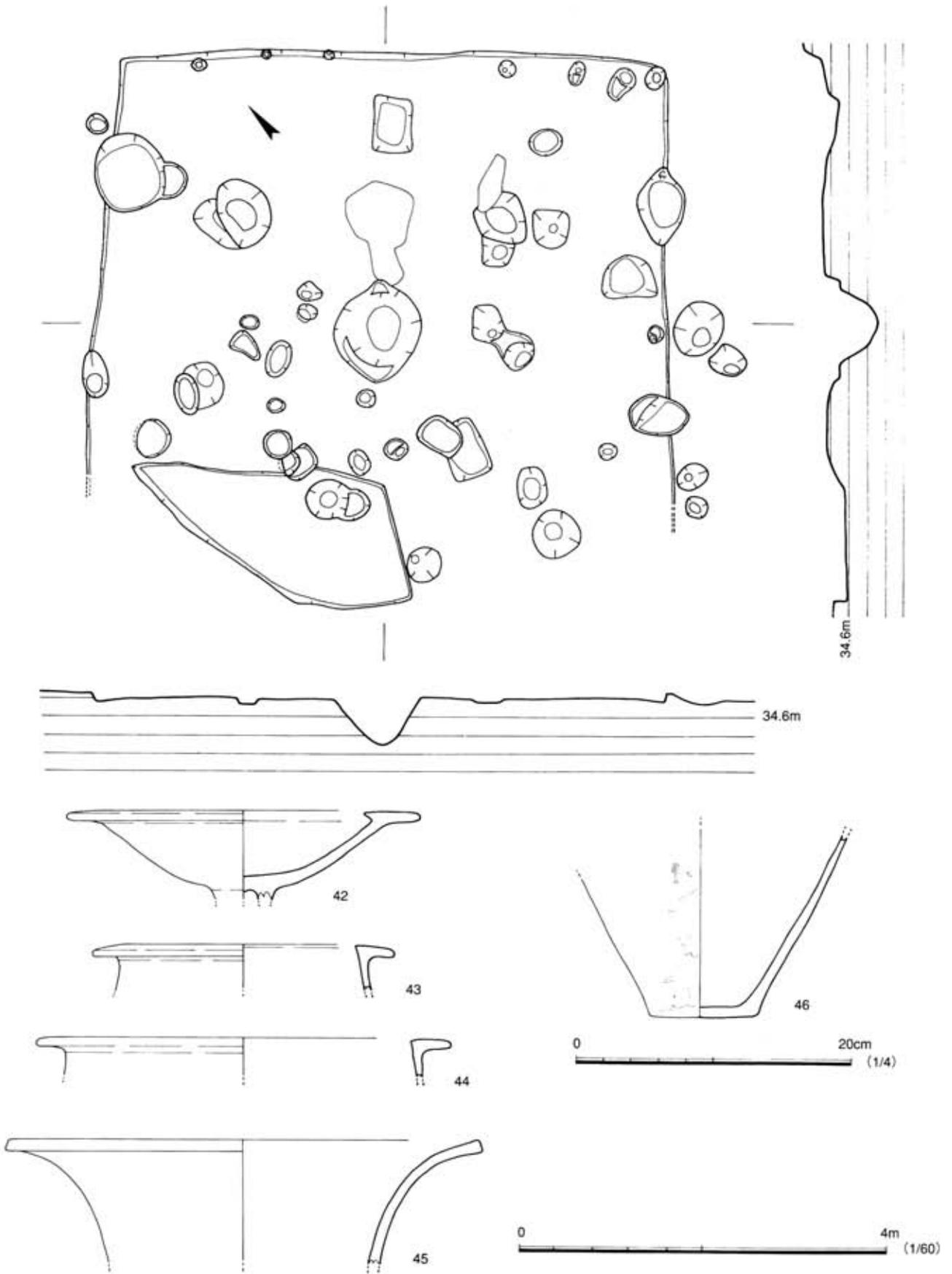


図24 SH4110竪穴住居跡 (1/60) と出土遺物 (1/4)

第3章 調査の内容

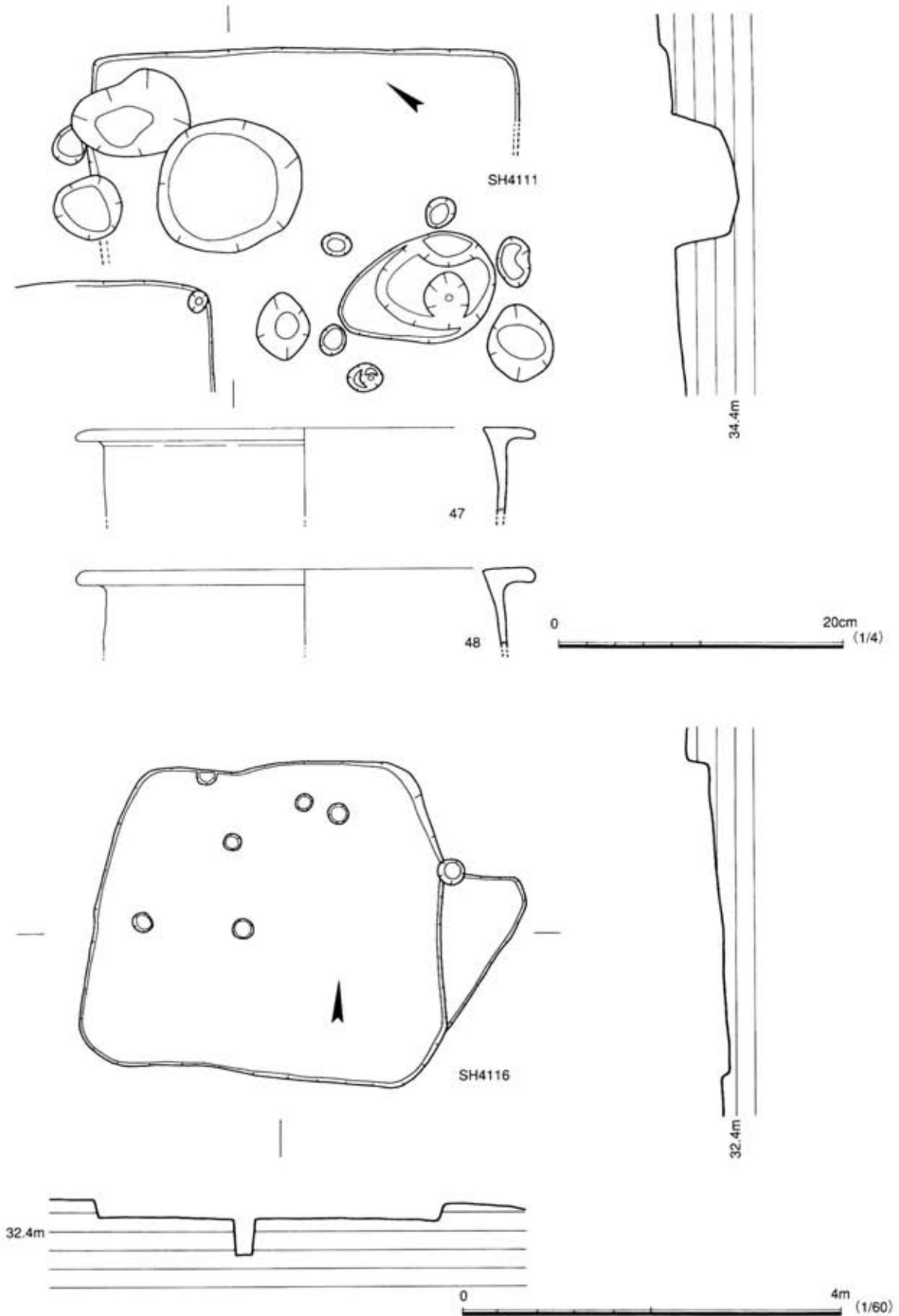


図25 SH4111竪穴住居跡 (1/60) と出土遺物 (1/4)、SH4116竪穴住居跡 (1/60)

第3章 調査の内容

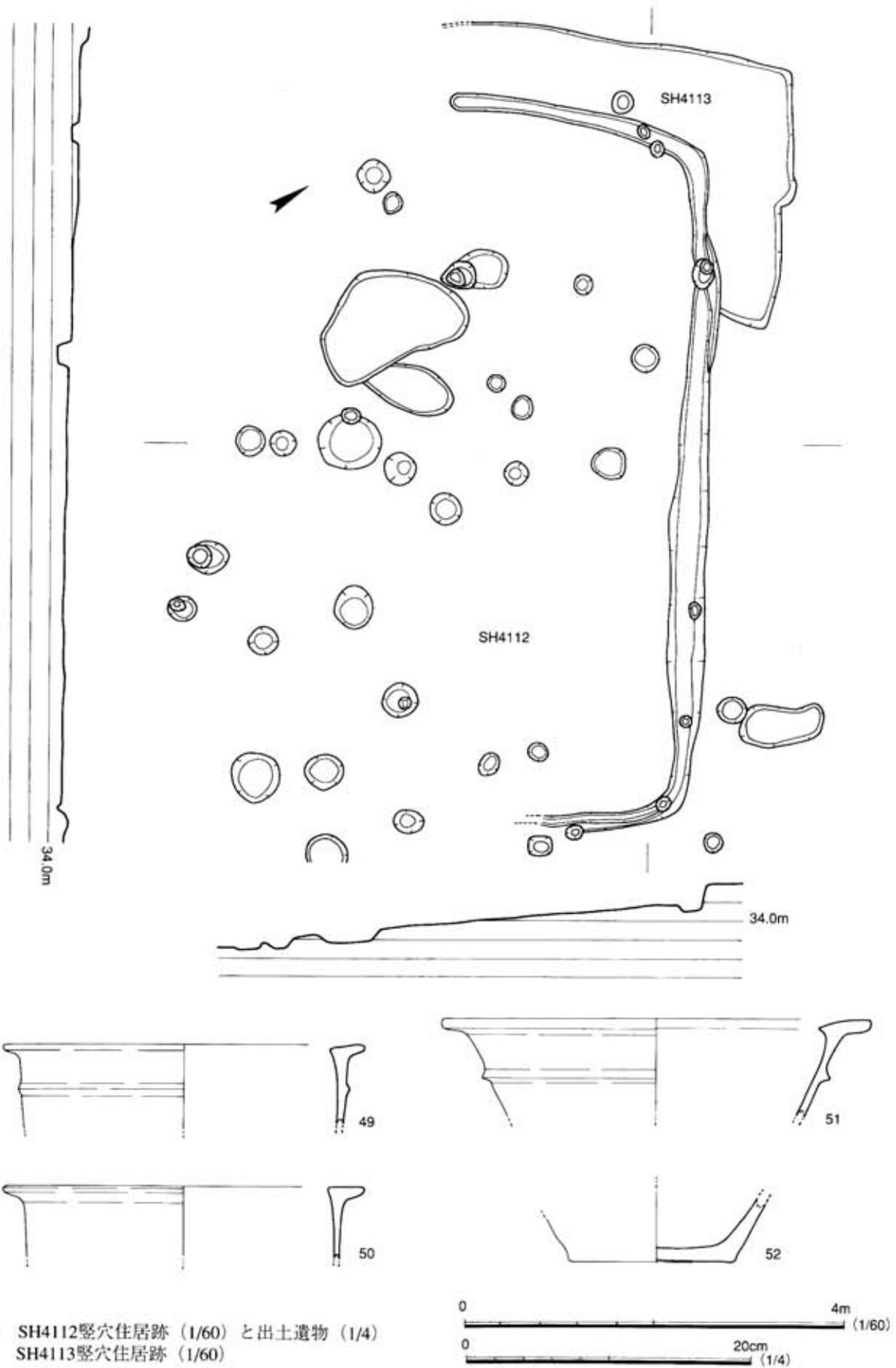


図26 SH4112竪穴住居跡 (1/60) と出土遺物 (1/4)  
SH4113竪穴住居跡 (1/60)

第3章 調査の内容

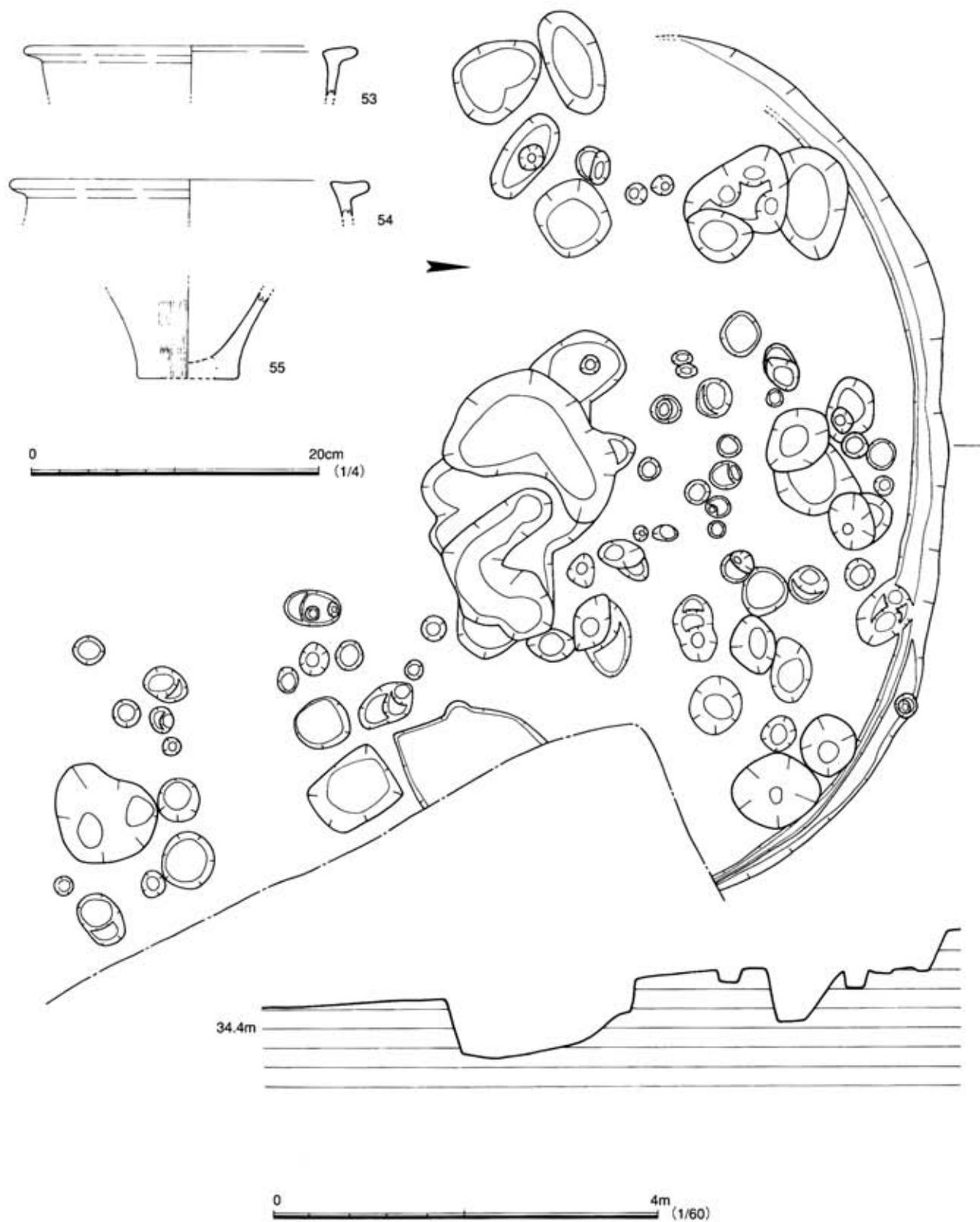


図27 SH4115竪穴住居跡 (1/60) と出土遺物 (1/4)

### 第3章 調査の内容

表5 大久保遺跡4区 弥生時代 竪穴住居跡一覧表

図番号	遺構番号	平面形	平面規模	深さ	長軸方向	屋内土壌	壁溝	バット状遺構	炉跡	備考
図20	SH4101	方形	?×?	10cm	N-50° -E	無?	無	無	無?	
◇	SH4102	方形	2.7m×?	10cm	N-18° -E	無	無	無	無	
図21	SH4103	方形	4.5m×?	10cm	N-34° -E	?	無	無	?	SH4105より古 SH4104より新
◇	SH4104	方形	3.6m×?	5cm	N-35° -E	有?	無	無	有?	SH4103より古 SD4502より新
図22	SH4105	方形	?×?	10cm	N-23° -W	有?	有	無	?	
◇	SH4106	方形	5.0m×?	10cm	N-45° -W	?	有	無	?	
◇	SH4107	方形	3.2m×?	10cm	N-46° -W	有?	無	無	?	
図23	SH4108	方形	4.5m×3.0m	10cm	N-20° -E	有?	無	無	?	SH4109・SD4502 より新しい
◇	SH4109	方形	4.5m×?	10cm	N-28° -E	無?	無	無	有?	SH4108・4110 より古い
図24	SH4110	方形	6.1m×?	15cm	N-42° -W	無	無	無	有	SH4109より新しい
図25	SH4111	方形	4.5m×?	5cm	N-50° -E	?	無	無	?	SH4110より古い?
図26	SH4112	方形	7.5m×?	10cm	N-40° -E	有?	有	無	無	SH4113より新しい
◇	SH4113	方形?	2.7m×?	5cm	N-32° -E	?	無	?	?	SH4112より古い
図27	SH4115	円形	直径(9.0m)	20cm	—	有?	有	無	無	
図25	SH4116	方形	3.3m×3.7m	15cm	N- 5° -W	無	無	無	無	

#### ②土壌

2基の土壌が検出された。遺構について概略を述べ、出土遺物の調整・特徴については表6(P48)に記す。

##### S K 4201土壌 (図28)

調査区のはほぼ中央、SH4115竪穴住居跡の北側に位置する。1.1m×0.7mの不整楕円形である。底面はほぼ平らで、南東部が若干深い。埋土中から弥生時代中期の甕・壺などが出土したが、小破片が多く完全に復元できたものはない。土壌の性格は不明である。

##### S K 4203土壌 (図29)

調査区の北西端に位置しており、SH4102竪穴住居跡より新しい。北側が調査区外になるため、全体の姿は不明である。調査された部分から推定すると、直径5m前後の正円形になろうか。建物跡である可能性もある。検出面からの深さは、最深部で約0.3mである。土壌の埋土からは弥生時代中期の甕・壺・器台などが出土したが、破片が多く完全に復元できたものはない。

第3章 調査の内容

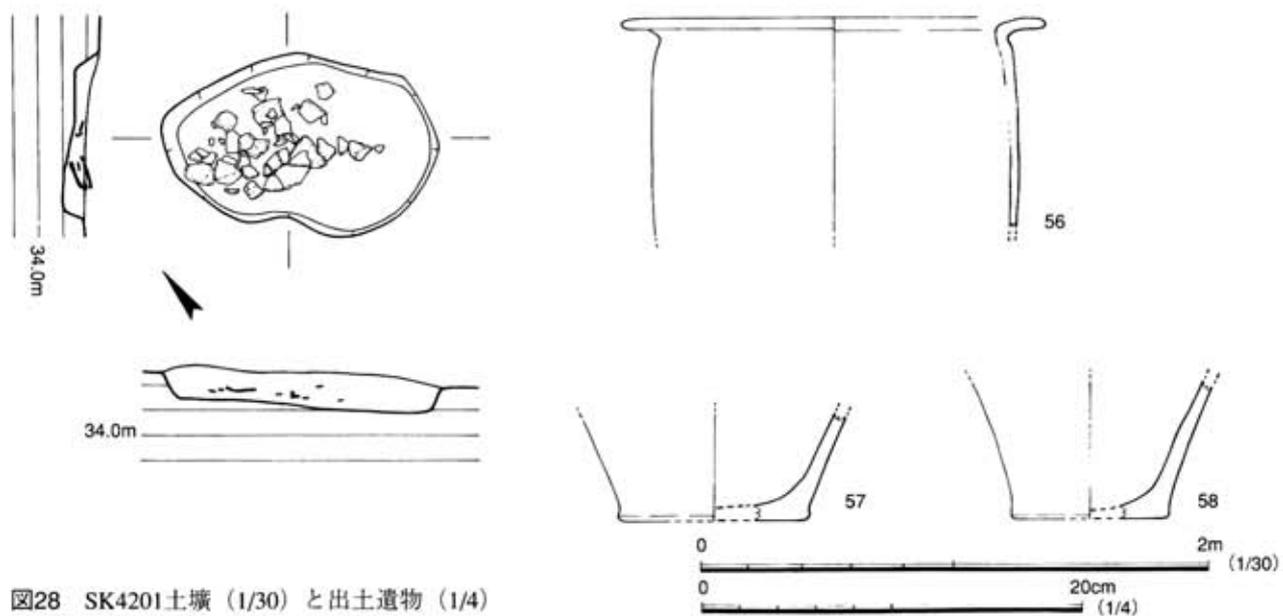


図28 SK4201土坑 (1/30) と出土遺物 (1/4)

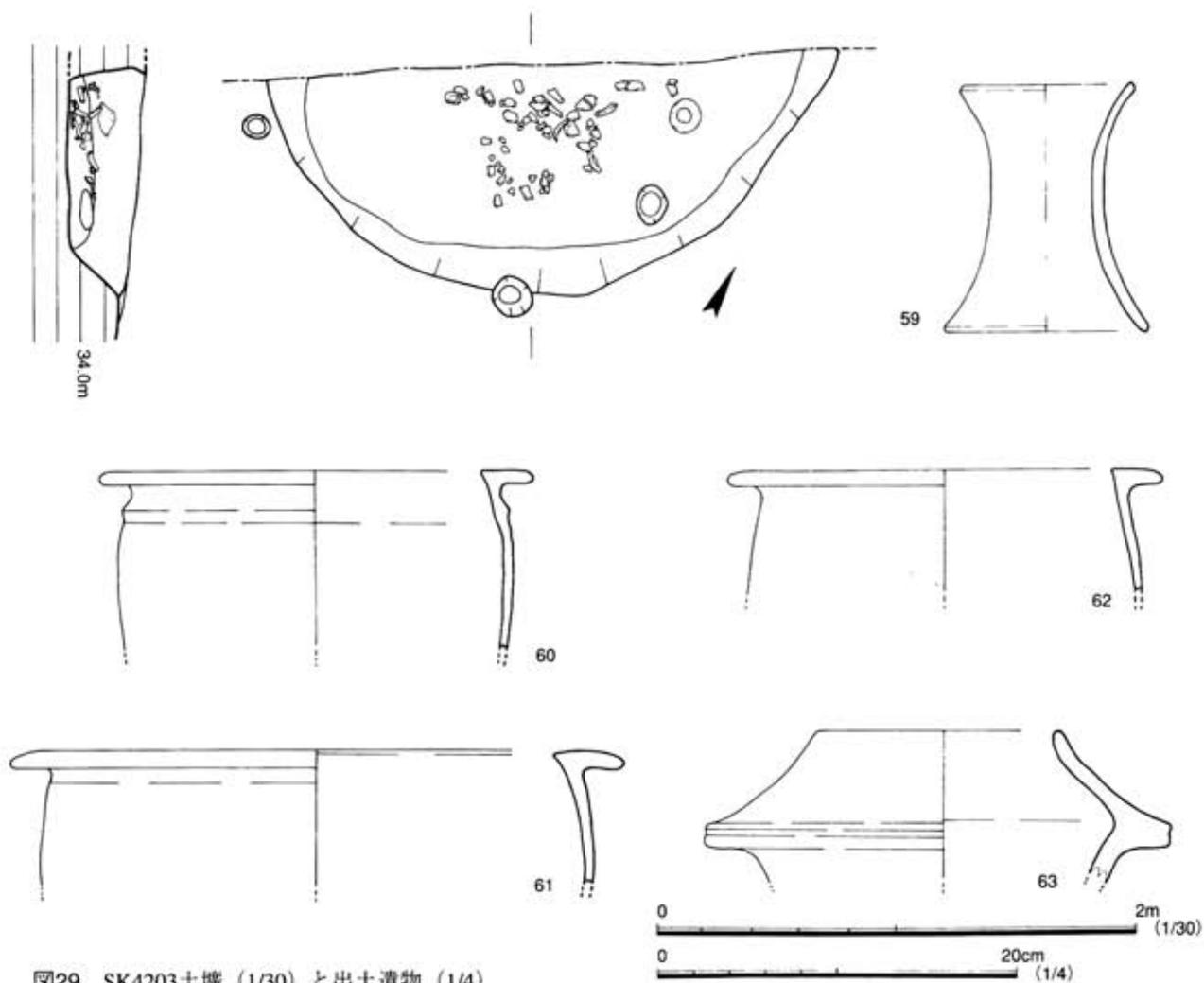


図29 SK4203土坑 (1/30) と出土遺物 (1/4)

### 第3章 調査の内容

#### ③甕棺墓

小児甕棺墓が1基検出された。遺構について概略を述べ、土器の調整・特徴については表6（P48）に記す。

#### S J 4401甕棺墓（図30）

調査区中央の北側から検出された。合わせ口の小児甕棺で、主軸方位はN-90°-W、棺の埋置角度は、25°である。検出面からの深さは最深部で約30cm。東部に小穴が重複するが新旧関係は不明。下甕の底部付近から20cmほどの石が出土したが、造墓時に意図的に置いたものか否かは不明である。副葬品および人骨は出土しなかった。

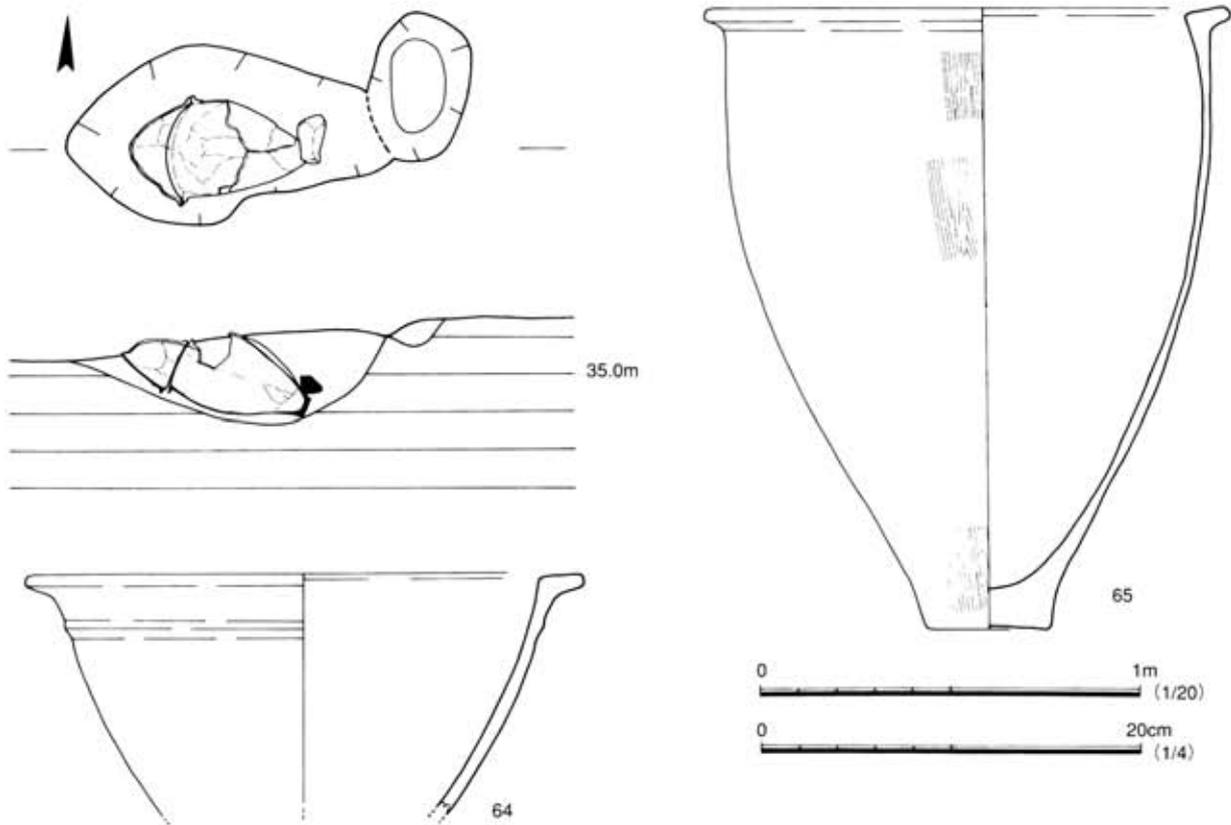


図30 SJ4401甕棺墓（1/20）と土器（1/4）

### 第3章 調査の内容

表6 大久保遺跡4区 遺物観察表

挿図番号 登録番号	出土遺構	器種	法量 (cm)	調整等	その他
図20-26 95002724	SH4101	壺	口径 (34.0) 器高 [ 5.5]	内外面とも調整不明	浅色で1~5mmの砂粒含む 口縁部付近の破片 焼成良好
図20-27 95002722	◇	甕	口径 (36.0) 器高 [ 4.1]	内外面とも調整不明	橙色で1~4mm砂粒含む 口縁部のみの破片 焼成良好
図20-28 95002723	◇	甕	底径 (40.0) 器高 [ 3.4]	内外面とも調整不明	にぶい橙色で1~3mmの砂粒含む 口縁部のみの破片 焼成良好
図20-29 95002721	◇	壺	口径 (11.0) 胴径 13.7 器高 9.0	内面ナデ・外面調整不明 口縁部ヨコナデ	内外面とも黒く煤けている 口縁部の一部欠損 焼成良好
図20-30 95002719	◇	壺	底径 7.0 器高 [ 4.2]	内面調整不明・外面一部 ハケ目	橙色で1~3mmの砂粒含む 底部のみの破片 焼成良好
図20-31 95002726	SH4102	壺	口径 (36.0) 器高 [ 4.3]	内外面ナデ	橙色で1~2mmの砂粒含む 口縁部のみの破片 焼成良好
図20-32 95002725	◇	壺	口径 (32.0) 器高 [ 2.9]	内外面とも調整不明	にぶい橙色で1~3mmの砂粒含む 口縁部のみの破片 焼成良好
図21-33 95002732	SH4104	壺	口径 (28.0) 器高 [ 6.2]	内面ヨコナデ・外面ミガ キ	橙色で1~3mmの砂粒含む 口縁部周辺の1/2残存 焼成良好
図21-34 95002731	◇	甕	口径 (30.0) 器高 [ 4.0]	内外面とも調整不明	橙色で1~5mmの砂粒含む 口縁部のみの破片 焼成良好
図21-35 95002733	◇	甕	口径 (26.0) 胴径 (23.6) 器高 [ 15.0]	内外面とも調整不明	橙色で1~3mmの砂粒含む 胴部~口縁部の1/2残存 焼成良好
図22-36 95002704	SH4106	甕	口径 (28.0) 器高 [ 5.0]	内外面とも調整不明	にぶい黄橙色で1~5mmの砂粒含む 口縁部のみの破片 焼成良好
図22-37 95002703	◇	甕	口径 (28.0) 器高 [ 2.8]	内外面とも調整不明	にぶい黄橙色で1~8mmの砂粒含む 口縁部のみの破片 焼成良好

### 第3章 調査の内容

挿図番号 登録番号	出土遺構	器種	法量 (cm)	調整等	その他
図22-38 95002706	SH4107	甕	口径 (23.2) 胴径 (22.1) 器高 [10.6]	内外面とも調整不明	浅黄橙色で5mm以下の砂粒含む 胴部～口縁部の1/8残存 焼成良好
図22-39 95002707	々	高杯	口径 (28.0) 器高 [ 5.6]	内外面とも調整不明	浅黄橙色で1～2mmの砂粒含む 杯部の1/4残存 焼成良好
図23-40 95002711	SH4108	壺	口径 (14.2) 器高 [ 5.6]	内外面とも調整不明	橙色で3mm以下の砂粒含む 口縁部のみの破片 焼成良好
図23-41 95002710	々	甕	口径 (14.2) 器高 [ 5.6]	内外面とも調整不明	橙色で3mm以下の砂粒含む 口縁部のみの破片 焼成良好
図24-42 95002715	SH4110	高杯	口径 (25.4) 器高 [ 6.5]	内面調整不明・外面ナデ 一部ニ赤色顔料残る	橙色で2mm以下の砂粒若干含む 杯部のみ1/2残存 焼成良好
図24-43 95002712	々	甕	口径 (23.2) 器高 [ 3.4]	内外面ともヨコナデ	浅黄橙色で細砂粒若干含む 口縁部のみの破片 焼成良好
図24-44 95002713	々	甕	口径 (29.8) 器高 [ 2.8]	内外面とも調整不明	浅黄橙色3mm以下の砂粒含む 口縁部のみの破片 焼成良好
図24-45 95002716	々	壺	口径 (34.0) 器高 [ 9.0]	内外面ともヨコナデ 一部に赤色顔料残る	浅黄橙色で細砂粒若干含む 口縁部のみの破片 焼成良好
図24-46 95002714	々	甕	底径 7.9 器高 [13.6]	内面ナデ・外面わずかに ハケ目	灰白色で細砂粒若干含む 胴下半分残存 焼成良好
図25-47 95002743	SH4111	甕	口径 (32.0) 器高 [ 5.9]	内外面とも調整不明	浅黄橙色で5mm以下の砂粒含む 口縁部のみの破片 焼成良好
図25-48 95002742	々	甕	口径 (32.0) 器高 [ 5.5]	内外面とも調整不明	橙色で5mm以下の砂粒含む 口縁部のみの破片 焼成良好
図26-49 95002745	SH4112	甕	口径 (25.0) 器高 [ 5.4]	内外面とも調整不明	橙色で2mm以下の砂粒含む 口縁部のみの破片 焼成良好

第3章 調査の内容

挿図番号 登録番号	出土遺構	器種	法量 (cm)	調整等	その他
図26-50 95002746	SH4112	甕	口径 (25.0) 器高 [ 5.0]	内外面とも調整不明	橙色で2mm以下の砂粒含む 口縁部のみの破片 焼成良好
図26-51 95002718	々	甕	口径 (30.0) 器高 [ 5.9]	内外面ともヨコナデ	浅黄橙色で細砂粒若干含む 口縁部のみの破片 焼成良好
図26-52 95002717	々	甕	底径 11.5 器高 [ 4.5]	内外面とも調整不明	灰色～黒色で3mm以下の砂粒若干含む 底部のみの破片 焼成良好
図27-53 95002738	SH4115	甕	口径 (22.8) 器高 [ 3.6]	内外面ともヨコナデ	橙色で3mm以下の砂粒含む 口縁部のみの破片 焼成良好
図27-54 95002739	々	甕	口径 (25.2) 器高 [ 2.5]	内外面ともヨコナデ	橙色で細砂粒若干含む 口縁部のみ1/2残存 焼成良好
図27-55 95002741	々	甕	口径 6.8 器高 [ 6.1]	内面ナデ・外面ハケ目	橙色で3mm以下の砂粒含む 底部のみの破片 焼成良好
図28-56 95002735	SK4201	甕	口径 (22.4) 胴径 (19.1) 器高 [11.0]	内面ナデ・外面ハケ目・ 口縁部ヨコナデ	橙色で2mm以下の砂粒多く含む 胴部～口縁部の1/4残存 焼成良好
図28-57 95002737	々	甕	底径 (10.0) 器高 [ 5.6]	内外面とも調整不明	浅黄色で2mm以下の砂粒含む 底部のみの破片 焼成良好
図28-58 95002736	々	甕	底径 ( 8.2) 器高 [ 7.5]	内外面とも調整不明	灰白色で2mm以下の砂粒多く含む 底部のみの破片 焼成良好
図29-59 95002759	SK4203	器台	口径 9.8 胴径 11.3 器高 23.9	内面ナデ・外面ハケ目・ 口縁部および底部端部調 整不明	橙色で3mm以下の砂粒多く含む 裾部の一部欠損 焼成良好
図29-60 95002756	々	甕	口径 (24.0) 胴径 (22.0) 器高 [10.0]	内面ナデ・外面調整不明 突帯ヨコナデ	橙色で1～6mmの砂粒含む 胴部～口縁部の1/4残存 焼成良好
図29-61 95002790	々	甕	口径 (34.2) 胴径 (30.7) 器高 [ 7.5]	内外面とも調整不明・口 縁部ヨコナデ	橙色で1～3mmの砂粒含む 口縁部のみの破片 焼成良好

### 第3章 調査の内容

挿図番号 登録番号	出土遺構	器種	法量 (cm)	調整等	その他
図29-62 95002757	SK4203	甕	口径 (24.0) 器高 [ 7.0]	内外面調整不明・外面一部ハケ目・口縁部ヨコナデ	にぶい橙色で1~3mmの砂粒含む 口縁部の破片 焼成良好
図29-63 95002734	々	器台	口径 13.5 最大径 26.0 器高 [ 8.0]	内外面ともヨコナデ、赤色顔料	橙色で細砂粒若干含む 受部のみ残存 焼成良好
図30-64 95002701	SJ4401 上	甕	口径 (28.9) 器高 [13.0]	内外面とも調整不明	にぶい黄橙色で7mm以下の砂粒含む 胴部~口縁部の1/2残存 焼成良好
図30-65 95002702	々 下	甕	口径 27.5 胴径 25.0 器高 32.8	内面調整不明・外面調整不明、一部ハケ目・口縁部ヨコナデ	にぶい橙色で6mm以下の砂粒含む 胴部~口縁部の1/3欠損 焼成良好

法量 ( ) 内は復元値・ [ ] 内は残存値

#### (2) 古墳時代の遺構と遺物 (図31・写真図版10)

竪穴住居跡が1棟、検出された。

#### S H4114

調査区のはほぼ中央から検出された。平面規模は南北の辺が長く、6 m×4.7m。検出面から床面までの深さは最深部で0.3mである。住居内の東部および南部に土壌、北部および東部に壁溝をもつ。カマド跡や柱穴は不明である。埋土中から弥生土器の破片の他、土師器および砥石が出土した。66は、くの字口縁をもつ壺である。内外面とも調整不明。口縁部のみの破片である。にぶい橙色で1 mm~5 mmの砂粒を含む。67は、胴部中位が張る小型の広口壺である。外面の調整は不明、内面には指頭圧痕が多く残る。浅黄橙色で4 mm以下の砂粒を含む。68は、口縁部に最大径をもつ甕と考えられる。胴部上位の若干張る部分に把手をもつ。内面はヘラケズリを行い、口縁部はヨコナデ、外面は縦方向のハケ目が残る。橙色で4 mm以下の砂粒を含む。69は高杯で、杯上半部はわずかに外反、下半部はわずかに内湾する。内面の調整は不明。外面の上半部はヨコナデ、下半部は調整不明。浅黄橙色で1 mm~3 mmの砂粒を含む。70とは別個体のようなものである。70は、高杯の脚~裾部である。脚部はほぼ直線的であるが、中位が若干ふくらむ。浅黄橙色で、1 mm~3 mmの砂粒を含む。71は砥石である。平面は三角形で、すべての面に研ぎ痕がある。結晶片岩製か。

第3章 調査の内容

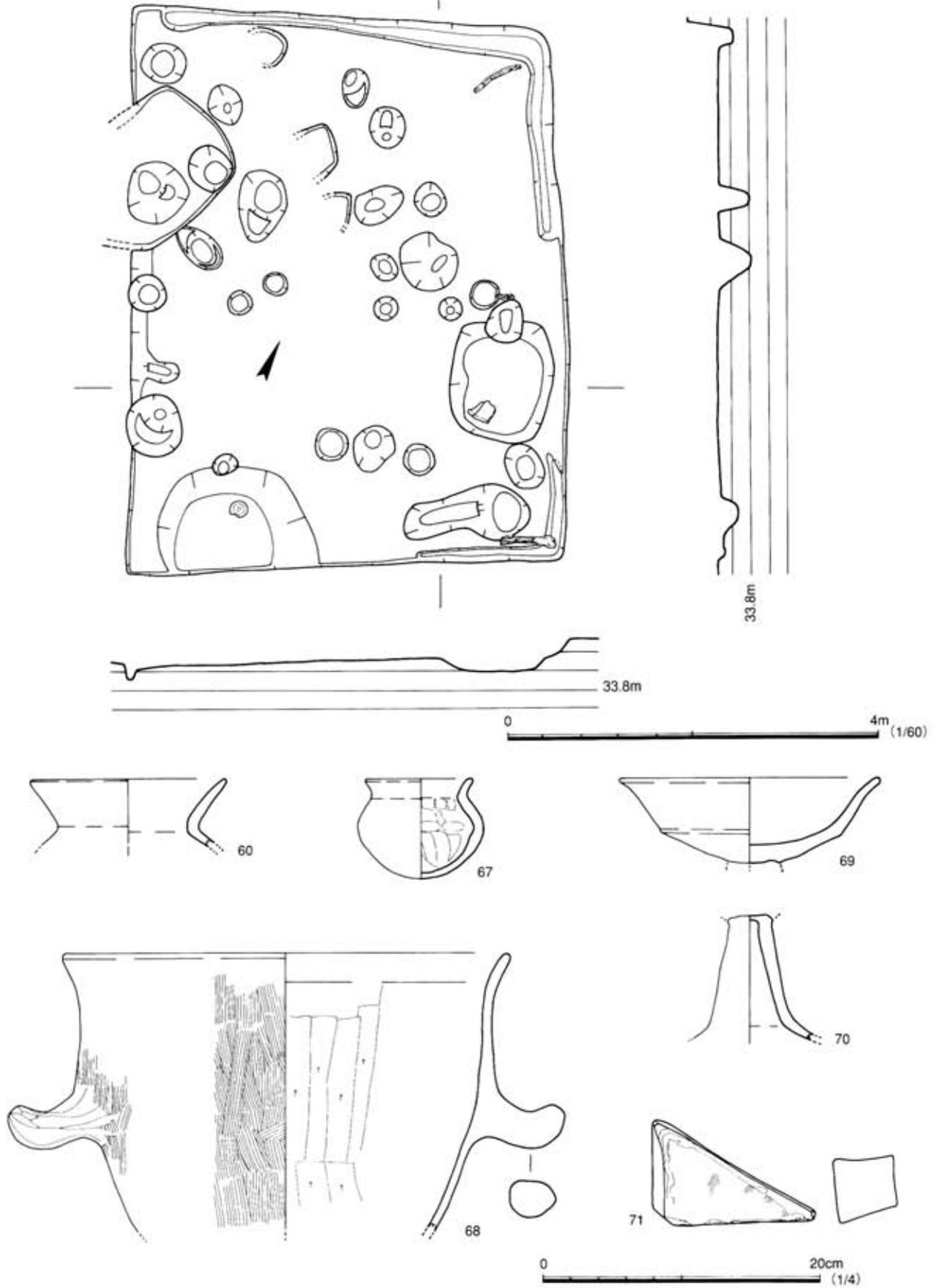


図31 SH4114竖穴住居跡 (1/60) と出土遺物 (1/4)

#### 4. 前田遺跡の概要

前田遺跡は鳥栖市柚比町字前田に所在する。前田遺跡の南側には谷を隔てて安永田遺跡が、北側には同じく谷を隔てて柚比本村遺跡がある。これらの谷は、本来の地形に山間部から流れる小河川の開析作用が加わり形成されたもので、遺跡の北東側を流れる本川川に向かって開いている。前田遺跡として周知化された範囲を地形的にみると、遺跡の南西端をピーク（標高50m）とする丘陵部と、丘陵の東～南側に広がる低平部に大別される。なお、遺跡の南西側には池があるが、これは前述した安永田遺跡との間の谷をせきとめて造った溜池である。

工事計画線は前田遺跡の北端近くの斜面裾部～平坦部を通過しており、調査は新都市開発事業関連の調査と一体的に平成5年度および平成7年度に実施された。前田遺跡1・2・4区が該当する。なお、工事計画線の北西端（470㎡）については遺構・遺物とも確認されておらず、地区番号は付していない。

調査区からは、弥生時代の竪穴住居跡・土壌・甕棺墓、古墳時代の竪穴住居跡・土壌、中世の溝跡などの遺構が検出された。特に4区を中心とする北向きの斜面での密集度は著しく、弥生時代中期から古墳時代後期にかけての竪穴住居跡や土壌が多数検出された。この時期の遺構は、前田遺跡だけでなく、安永田遺跡・大久保遺跡・平原遺跡など本川川に面した丘陵の斜面に連綿と認められ、本川川の両岸を中心に集落が展開していたことがうかがえる。

周辺遺跡との関連を含め、前田遺跡の概要をまとめると以下ようになる。

#### 弥生時代

前田遺跡において最初に集落が形成される時期である。特に北向きの斜面に顕著で、直径10m前後の円形の竪穴住居跡が5棟前後認められ、中期前半～中頃の土器が出土している。また、方形の竪穴住居跡が40棟前後認められ中期中頃を中心とした土器が出土している。中期前半～中頃に大型の円形住居が出現するのは、前田遺跡だけでなく、大久保遺跡や安永田遺跡など本川川に面した遺跡でみられる共通の現象である。柚比遺跡群における集落の動向を知る手掛かりになると同時に、中期初頭からの造墓活動が継続する柚比本村遺跡(1)との関連が問題となろう。また、削平により詳細は不明だが、調査区の北端から検出された方形？のS D4421溝跡(2)は、柚比本村遺跡に近接するだけに、性格が問題視されよう。

前田遺跡は単なる集落遺跡ではなく、青銅器鑄造に関連した遺跡である可能性もある。昭和56年度に鳥栖市教育委員会が実施した確認調査において、北斜面中ほどの遺物包含層から中期前半～中頃の土器を伴って輪の羽口が出土している(3)。また、調査区北側の土壌の埋土からは魚の形？を彫り込んだ青銅器の鑄型が中期中頃の土器を伴って出土している(4)。いずれの例も、出土した地点が鑄造地点であるとの証拠にはならず、前田遺跡即ち青銅器鑄造遺跡との判断は早計であろうが、現時点で柚比遺跡群の中からかかる候補を挙げるとすれば有力な遺跡のひとつであると言えよう。本川川周辺の集落跡からは、中期代のもと考えられる青銅器鑄型はまれに出土するものの、輪の羽口の出土例はないこと、中期後半から後期初頭にかけて同じく本川川南岸に所在する安永田遺跡で青銅器の鑄造が行われていたこと(5)、などが示唆に富む。

### 第3章 調査の内容

#### 古墳時代

弥生時代同様、北向きの斜面に遺構が集中しており、方形の竪穴住居跡が5棟前後認められる。すべて後期のもので、前期～中期のものは存在しない。この傾向は本川川周辺の遺跡に共通の現象で、平原遺跡・大久保遺跡・安永田遺跡・梅坂炭化米遺跡などで後期の集落跡が確認されている。第2章の歴史的環境でも述べたが、この時期には、前田遺跡の南東部の丘陵を中心として大型の前方後円墳や円墳が相次いで築造される。また、山麓の尾根筋には群集墳が形成される。古墳(群)と集落との関係の解明が今後の課題となろう。

#### 古代～中世

明確な遺構は確認されていない。当期のものと考えられる断面V字形の溝が北斜面の中位から下位に数条あるが、人為的なものである可能性は低く、自然に出来上がった雨水の流路と考えられる。遺物は少ないが、青磁・白磁・土師器などの破片が出土している。斜面の頂部は完全に削平されており不明であるが、何らかの遺構が存在していた可能性は高い。

#### 註

1. 第2章2. 歴史的環境を参照
2. 断面形が逆台形の溝跡。北側が削平されていて全体の姿は不明。一辺14m前後の方形区画の可能性はある。埋土からは中期前半～中頃の土器が出土した。中期中頃の竪穴住居跡に切られる。
3. 鳥栖市教育委員会 1984 「前田遺跡－柚比遺跡群範囲確認調査第4年次調査報告書－」鳥栖市文化財調査報告書第23集
4. 新都市開発事業関連の調査で平成7年度に出土。
5. 鳥栖市教育委員会 1985 「安永田遺跡－佐賀県鳥栖市に所在する銅鐸鋳型出土地点の調査－」鳥栖市文化財調査報告書第25集

## 第4章 総括

河川改良工事に伴い設定された調査区は、すべて新都市開発事業関連の調査区の中を通過するか、もしくは近接した箇所当たる。河川改良工事関連の調査区は狭小で、もとよりその記録だけで各遺跡の全容を知るには無理がある。新都市開発事業関連の現時点での調査成果を加え、本川川周辺の遺跡の概要と問題点を述べ総括とする。

今回、報告した調査箇所は、主に弥生時代中期代および古墳時代後期の集落跡であるが、この二時期に集落が形成されるのは、本川川周辺の遺跡に共通の現象である。特に弥生時代における遺跡の消長は、本川川北岸の大久保遺跡や平原遺跡、南岸の前田遺跡や安永田遺跡（遺跡のうち本川川沿いの箇所＝丘陵の北側縁辺部）においてほぼ共通しており、集落形成のピークは弥生時代中期前半～中頃にある。墓地の消長も概ねこの時期幅におさまり、本川川を中心として集落の外側に数カ所に分かれて立地する(1)。ただし、安永田遺跡（遺跡のうち丘陵の上位）と平原遺跡は消長を異にしており、安永田遺跡では中期末に銅鐸や銅矛などの青銅器が鑄造され(2)、平原遺跡では同じく中期末に丘陵の頂部に環濠集落が形成される。また、前期代の集落は柚比遺跡群中、北端に位置する八ツ並金丸遺跡にあると考えられている(3)。本川川周辺の遺跡を考える際に注意を要するのは、これらの遺跡と柚比本村遺跡(4)との関係である。この遺跡では中期初頭の木棺墓の造営を始めとして、後期前半までの甕棺墓が45基出土している（中期後半に一時、造墓が中断する）。墓地群には赤漆玉鈿装鞘銅剣を含む7本の銅剣や把頭飾などが副葬されており、他の遺跡の墓地群との格差が見て取れる。また、中期中頃～後半の大型の掘立柱建物跡が5棟確認されている。遺跡の立地状況(5)をみると、当遺跡が本川川周辺の遺跡と不可分の関係にあったことは明白で、柚比本村遺跡の動向を視野に入れながら各遺跡の変遷を考える必要がある。また、これは、柚比本村遺跡の墓地や掘立柱建物の性格や機能を知る上でも不可欠のことである。

弥生時代同様、古墳時代の集落形成についても、本川川周辺の遺跡には共通の現象がみられる。古墳時代前期～中期の集落は見当たらず、後期になって本川川沿いの丘陵の斜面～頂部に一斉に出現する。この時期は、中段丘上に大型の前方後円墳や円墳が築造されるとともに、山麓部を中心に小円墳からなる古墳群が形成される。古墳群の中でも永田古墳群や大平古墳群については、本川川やその支流の谷筋に沿って遡ると古墳群が立地する尾根にたどり着くことから、集落と古墳群とが対応する可能性をもっている。周辺遺跡の調査成果をまちたい。

## 註

1. すべて甕棺墓地で、柚比梅坂遺跡・大久保遺跡の東端部・安永田遺跡の北東端などが該当する。
2. 鳥栖市教育委員会 1985 「安永田遺跡－佐賀県鳥栖市に所在する安永田遺跡銅鐸鑄造鑄型出土地点の調査－」鳥栖市文化財調査報告書第16集
3. 鳥栖市教育委員会 1986 「八ツ並遺跡」鳥栖市文化財調査報告書第28集
4. 渋谷格 1994 「鳥栖市柚比本村遺跡の調査」『九州考古学』第69号 九州考古学会
5. 大久保遺跡・安永田遺跡の間を流れる本川川を北西に遡ると、川は北に屈曲し、屈曲部には南西から支流が合流する。柚比本村遺跡は、この合流点上流側の略三角形をした微高地に立地している。その背後は、比高差10m前後のトロイデ状の円頂丘に続いている。つまり、集落の立地する河谷の北西の果てに、一段高い墓地が円丘を背にして存在することになる。



1. 平原遺跡4区全景（北東から） 2. 調査前の平原古墳（北東から）

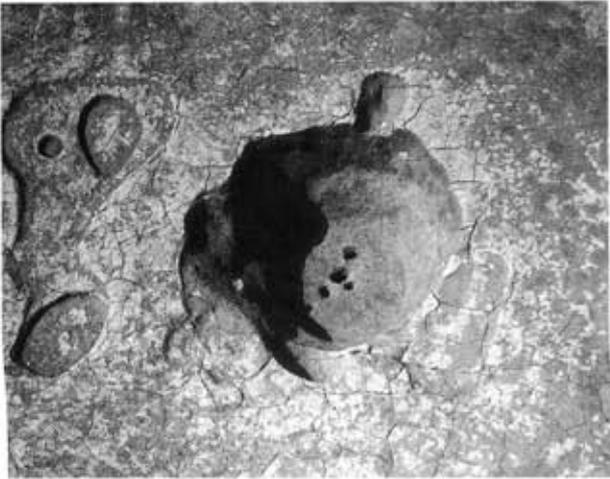


3

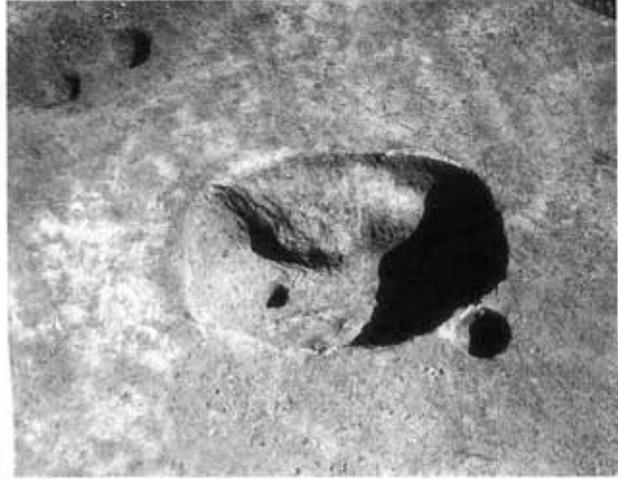


4

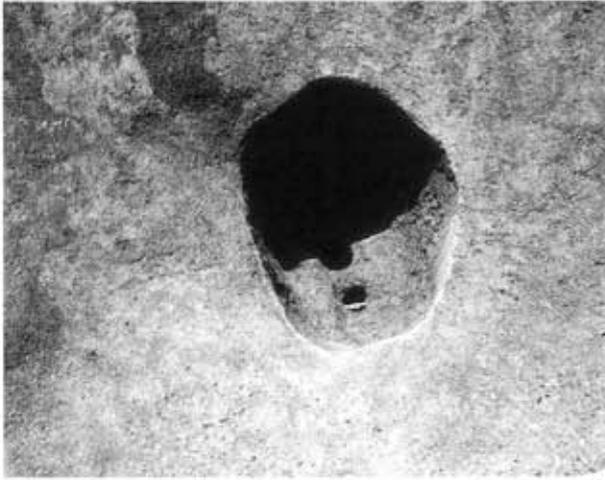
3.平原遺跡4区全景（東から） 4.平原遺跡4区全景（西から）



5



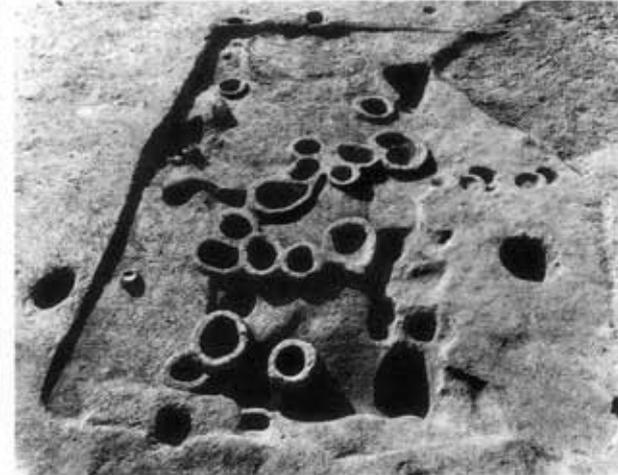
6



7



8

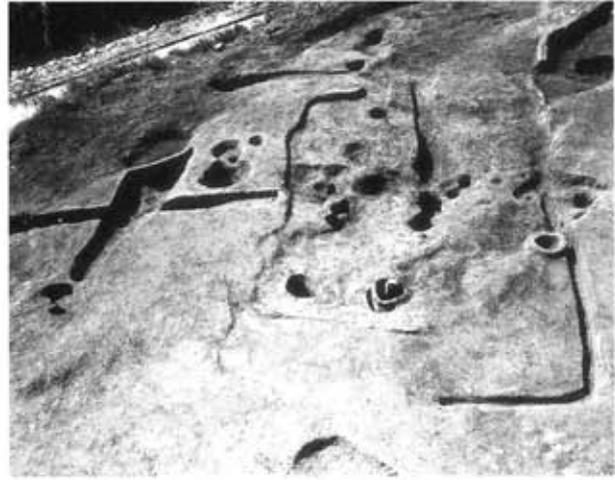


5.SK07土壙（東から）  
7.SK09土壙（北から）  
9.SH02竪穴住居跡（南から）

6.SK08土壙（南西から）  
8.SK17土壙（北東から）  
10.SH13竪穴住居跡（東から）



11



12



13



14



15



16

- 11.SH14竪穴住居跡（北から）
- 12.SH15竪穴住居跡（北東から）
- 13.SH16竪穴住居跡（北から）
- 14.SH01竪穴住居跡（西から）
- 15.SH05竪穴住居跡（東から）
- 16.SD18溝跡（東から）



17



18

17.平原遺跡6区全景（南から） 18.平原遺跡6区全景（東から）



19



20



21



22



23



24

19.SH024竪穴住居跡 (南から)  
21.SH006土壇 (西から)  
23.SK025土壇 (東から)

20.SK005土壇 (北西から)  
22.SK026土壇 (東から)  
24.SH018竪穴住居跡 (北西から)



25.大久保遺跡4区全景（南西から） 26.大久保遺跡4区調査区西端付近（南西から）



27



28

27.大久保遺跡4区調査区中央付近（南西から） 28.SH4114.4115竪穴住居跡（西から）



29



30



31



32



33



34



35



36

29.SH4101 竪穴住居跡 (南東から)

31.SH4103.4104.4105 竪穴住居跡 (南西から)

33.SH4106 竪穴住居跡 (南西から)

35.SH4108.4109 竪穴住居跡 (南西から)

30.SH4102 竪穴住居跡 (北から)

32.SH4104 竪穴住居跡 (南西から)

34.SH4107 竪穴住居跡 (北東から)

36.SH4110 竪穴住居跡 (南西から)



37



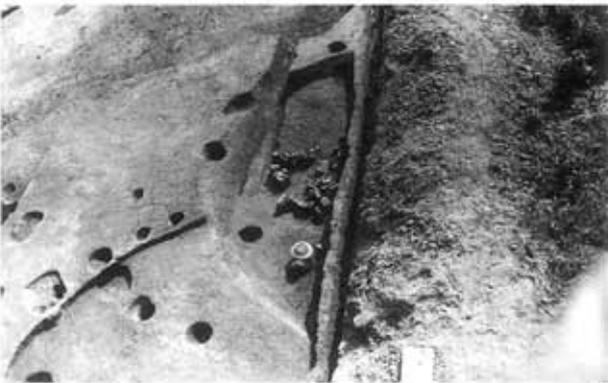
38



39



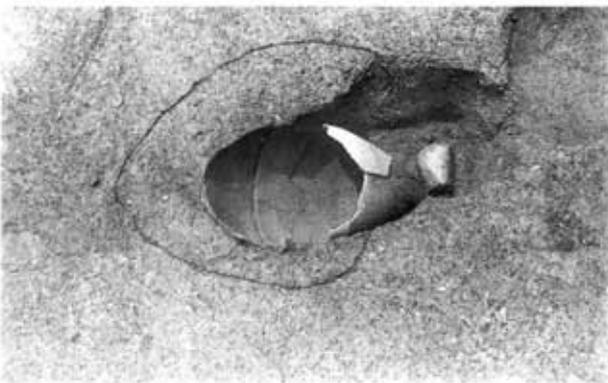
40



41



42



43



44

37.SH4111 竪穴住居跡 (南西から)  
39.SH4116 竪穴住居跡 (南から)  
41.SK4203 土壙 (北東から)  
43.SJ4401 甕棺墓

38.SH4112.4113 竪穴住居跡 (北東から)  
40.SK4201 土壙 (北から)  
42.SK4203 土壙土器出土状況 (北東から)  
44.SH4114 竪穴住居跡 (北西から)



45

45.前田遺跡全景（南東から）



46



47

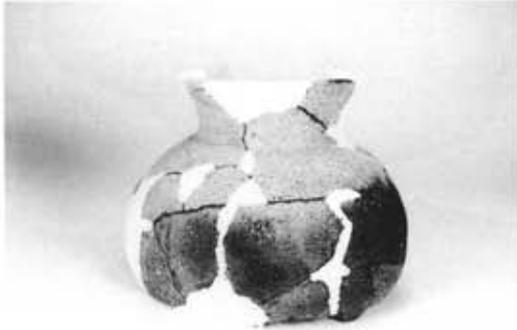
46.前田遺跡全景（南から） 47.前田遺跡全景（北斜面）



5



6



8



9



10



11



12



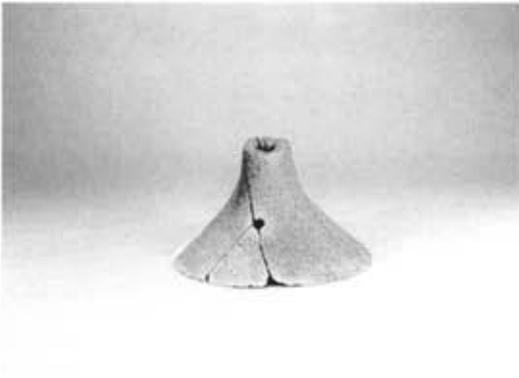
13



14



15



18



29



33



35



47



48

平原遺跡4区SH05出土土器 (14.15)  
大久保遺跡4区SH4101出土土器 (29)  
大久保遺跡4区SH4111出土土器 (47.48)

平原遺跡4区SH14出土土器 (18)  
大久保遺跡4区SH4104出土土器 (33.35)



56



59



60



62



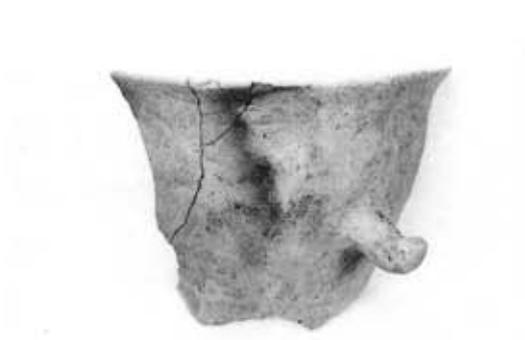
63



64



65



68

大久保遺跡4区SH4201出土土器 (56)  
大久保遺跡4区SJ4401出土土器 (64.65)

大久保遺跡4区SK4203出土土器 (59~63)  
大久保遺跡4区SH4114出土土器 (68)

佐賀県文化財調査報告書第131集

大久保遺跡Ⅰ

一本川河川局改良工事関係文化財調査報告書1-

編集 佐賀県教育委員会  
発行 佐賀県佐賀市城内1丁目1番59号  
1997年3月31日

印刷 大成写真製版所  
佐賀県佐賀市巨勢町大字牛島字一本松353

